

様式6（第15条第1項関係）

平成29年4月7日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

研究機関の設置者の所在地	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号	
研究機関の設置者の名称	国立大学法人熊本大学	
代表者の職名・氏名	学長・原田信志 (記名押印)	
代表研究機関名及び機関コード	熊本大学	17401

平成28年度戦略的国際研究交流推進事業費補助金
実績報告書

戦略的国際研究交流推進事業費補助金取扱要領第15条第1項の規定により、実績報告書を提出します。

整理番号	S2606	補助事業の完了日	平成 29年 3月 31日	関連研究分野 (分科細目コード)	消化器外科学 8302
------	-------	----------	---------------	---------------------	----------------

補助事業名（採択年度） 消化器癌におけるがん代謝メカニズム解明を目指した国際共同研究（平成26年度）	補助金支出額（別紙のとおり） 41,246,760 円
---	--------------------------------

代表研究機関以外の協力機関

海外の連携機関

Dana-Farber Cancer Institute and Harvard Medical School
The University of Texas MD Anderson Cancer Center
Duke-NUS Graduate Medical School
Shengjing Hospital of China Medical University
University of Southern California, Norris Comprehensive Cancer Center
Icahn School of Medicine at Mount Sinai

1. 事業実施主体

フリガナ 担当研究者氏名	所属機関	所属部局	職名	専門分野
主担当研究者 マバ ヒデオ 馬場 秀夫	熊本大学	大学院生命科学研究部	教授	消化器外科学
担当研究者 マバ ヨシフミ 馬場 祥史	熊本大学	大学院生命科学研究部	講師	消化器外科学
計2名				

フリガナ 連絡担当者	所属部局・職名	連絡先（電話番号、e-mailアドレス）
ササキ ナオト 佐々木 尚人	生命科学系事務課・医学事務チーム 研究支援担当係長	096-373-5657 ski-shien@jimu.kumamoto-u.ac.jp

2. 本年度の実績概要

①Dana-Farber Cancer Institute

昨年度から引き続き小澄敬祐研究員を派遣し、食生活やライフスタイル、がん代謝、腫瘍免疫、腸内細菌の関連を包括的に解析するための技術開発を行った。主担当研究者である馬場秀夫が平成 28 年 8 月 14 日から 15 日の 2 日間、Dana-Farber Cancer Institute を訪問し、主要連携研究者である Dr. Shuji Ogino と今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。

②Duke-NUS Graduate Medical School Singapore 昨年度から引き続き石本崇胤研究員を派遣し、胃癌における癌組織代謝不均衡性に関わる分子ネットワークやがん代謝に及ぼす間質の影響についての解明を目指して共同研究を行った。今年度は主担当研究者である馬場秀夫が平成 28 年 7 月 30 から 8 月 1 日に Duke-NUS Graduate Medical School Singapore を訪問し、派遣者である石本研究員や連携研究者である Dr. Tan と研究打ち合わせを行い、石本研究員の派遣終了後の研究状況については、メール・スカイプ等で密に連絡を取り合い、適宜、具体的なプロトコル、研究計画に関する調整を行っていく旨、合意した。石本研究員は、平成 27 年 7 月 16 日より、熊本大学 The International Research Center for Medical Sciences (IRCMS) の客員准教授へ就任、平成 28 年 8 月 31 日に帰国し、熊本大学大学院生命科学研究部特任講師として研究を継続している

③Shengjing Hospital of China Medical University:Gao Feng 医師が平成 28 年 9 月 25 日から来日し、膵癌における LOX 発現の意義に関する研究を開始した。主担当研究者である馬場秀夫が、平成 28 年 9 月 18 日から 9 月 20 日、本プログラムの連携研究者である Dr. Tan Xiaodong より依頼を受け、中国・第四軍医大学にて講演を行った。また、Dr. Tan は平成 29 年 2 月 10 日から 2 月 12 日まで熊本大学消化器外科学を訪問し、Gao Feng 医師の生活状況、研究の進捗状況について確認、今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。

④The University of Texas MD Anderson Cancer Center 昨年度から引き続き原田和人非常勤診療医師を派遣し、食道癌、胃癌に対する個別化治療のための標的遺伝子の同定を目指した研究を推進した。主担当研究者である馬場秀夫が平成 28 年 8 月 15 日から 8 月 16 日の 2 日間、The University of Texas MD Anderson Cancer Center を訪問し、連携研究者である Dr. Ajani と今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。また、Dr. Ajani が平成 29 年 2 月 8 日から 2 月 12 日に熊本大学医学部を訪問し、研究の進捗状況、今後の方針などについての discussion を行った。

⑤University of Southern California, Norris Comprehensive Cancer Center 昨年度から引き続き宮本裕士助教を派遣し、ゲノム薬理学 (pharmacogenomics) の技術を応用し、がん代謝に関わる遺伝子多型などの解析を行うことにより、がん代謝を標的とした創薬またはそのバイオマーカーの開発を目指した研究を行った。主担当研究者である馬場秀夫が平成 28 年 8 月 11 日から 8 月 12 日の 2 日間、University of Southern California, Norris Comprehensive Cancer Center を訪問し、連携研究者である Dr. Lenz と研究の進捗状況ならびに今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。

⑥Icahn School of Medicine at Mount Sinai 東孝暁研究員を平成 28 年 5 月 11 日から派遣し、非アルコール性脂肪肝(炎)から発症した肝細胞癌コホートをを用いて、がん代謝経路の遺伝子発現と発癌、予後、及び脂肪肝炎の進行に着目した解析を開始した。平成 28 年 4 月 12 日から 4 月 22 日までの 10 日間ほど、事前打ち合わせのため渡航し主担当研究者である馬場秀夫が平成 28 年 8 月 13 日、Icahn School of Medicine at Mount Sinai を訪問し、連携研究者である Dr. Hoshida と今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。

3. 到達目標に対する本年度の達成度及び進捗状況

1) 細胞の主要なエネルギー代謝経路である 解糖、ミトコンドリアによる好気呼吸の状態を、細胞に対して無侵襲・高感度に経時的計測が可能な世界最先端の細胞代謝アナライザーである SeahorseBioscience 社 細胞外フラックスアナライザーを初年度に購入した。この機器を使用して、食道癌における NRF2 のがん代謝における役割を検証し、その成果を現在腫瘍学のトップジャーナルに投稿中である。

2) 各共同研究施設との研究進捗は以下のとおりである。

① Dana-Farber Cancer Institute: 小澄研究員は、大腸癌におけるがん代謝、microbiome に関するバイオマーカーの探索を行っている。オートファジーは自食作用とも言われ、がん代謝を制御している。なかでも SQSTM1 (p62) は近年のオートファジー研究の中で注目を集めるオートファジーマーカーの一つであるが、SQSTM1 高発現が FOXP3 (制御性 T 細胞のマーカー) 低下と有意に相関することを *OncoImmunology* 誌 (IF 6.27) に報告した。

② Duke-NUS Graduate Medical School Singapore: 胃癌および食道胃接合部癌の切除標本から腫瘍間質に存在する CAFs 及び normal fibroblasts (NFs) 細胞株の樹立をおこなっている。網羅的ゲノム解析として、次世代シーケンサーによる 9 ペアでのエクソームシーケンシング、11 ペアでの RNA シーケンシングをおこなった。ゲノム解析は、Duke-NUS Graduate Medical School Singapore, Cancer and Stem Cell Biology Program にておこない、現在、網羅的解析から得られたデータの中で CAFs に特異的な変化を見出した。現在、その研究成果を消化器病学のトップジャーナルに投稿した。(Ishimoto T et al. *Gastroenterology*, in press)。

③ Shengjing Hospital of China Medical University: まず、重要なゲノム変化として *KRAS* 遺伝子変異に着目して解析を開始した。*KRAS* 変異は膵癌予後に影響を及ぼさないという結果が得られ、本研究成果は *Medical Oncology* (Med Oncol 2016; 33: 32) に掲載された。現在は、膵癌における LOX のがん代謝における役割に関する研究を遂行しており、興味深い結果が得られている。

④ The University of Texas MD Anderson Cancer Center: 腹水を伴う胃癌患者より、腹水を採取し腹水細胞を分離した。分離した細胞より、DNA、RNA、タンパクを採取し、それぞれを Exon Sequence, RNA Sequence, 液体クロマトグラフィー質量分析法による網羅的解析を行った。腹水細胞をマウスに移植することで PDX モデルを作製することにも成功している。液体クロマトグラフィー質量分析では、代謝酵素の一つでがん幹細胞との関係が報告されている ALDH1 が腹水細胞に増加していることを明らかにされた。

⑤ Norris Comprehensive Cancer Center: 肥満による癌死亡リスク上昇も報告されているが、肥満が癌に与える影響は、脂肪組織により産生されるアディポカインレベルに左右される。切除不能大腸癌に対する bevacizumab 併用化学療法の治療効果予測因子として、アディポカイン関連遺伝子についての機能性 SNP 解析を行ったところ、アディポカインシグナルは有用なバイオマーカーになりうる可能性はあるものの、人種や BMI 値の影響を受けることが明らかになった。これらの研究に関する総説を報告した (Miyamoto Y et al. *Clin Cancer Res* 2016)

⑥ Icahn School of Medicine at Mount Sinai: 中川茂樹医師及び東孝暁医師は、アルコール性肝疾患、NAFLD/NASH といった肝代謝異常から発症する肝細胞癌の発生を予測する gene signature を検討、およびその癌発症の代謝メカニズムを解明することによる発癌予防薬のスクリーニングを行った。その成果は、国際一流誌である *Cancer Cell* (IF 23.2) に掲載された。

4. 日本側研究グループ（実施主体）の研究成果発表状況（本年度分）

①学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文又は著書

論文名・著書名 等	
<p>（論文名・著書名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。）（以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・査読がある場合、印刷済及び採録決定済のものに限って記載して下さい。査読中・投稿中のものは除きます。 ・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。 ・著者名について、責任著者に「※」印を付してください。また、主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者については<u>下線</u>、若手研究者については<u>波線</u>を付してください。 ・海外の連携機関の研究者との国際共著論文等には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共著論文等については番号の前に「○」印を付してください。また、主要連携研究者については<u>斜体・太下線</u>、連携研究者については<u>斜体・破線</u>としてください。 	
1◎	※ <u>Ishimoto T</u> , Miyake K, Nandi T, Yashiro M, Onishi N, Huang KK, Joyce LN, Kalpana R, Tay ST, Suzuki Y, Cho BC, Kuroda D, Arima K, Izumi D, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Oki E, Watanabe M, Saya H, Hirakawa K, <u>Baba H</u> , <u>Tan P</u> . Activation of Transforming Growth Factor Beta 1 Signaling in Gastric Cancer-associated Fibroblasts Increases Their Motility, via Expression of Rhomboid 5 Homolog 2, and Ability to Induce Invasiveness of Gastric Cancer Cells. <i>Gastroenterology</i> . 2017 (in press)
2◎	※ <u>Kosumi K</u> , Masugi Y, Yang J, Qian Z, Kim S, Li W, Shi Y, da Silva A, Hamada T, Liu L, Gu M, Twombly T, Cao Y, Barbie D, Noshio K, <u>Baba H</u> , Garrett W, Meyerhardt J, Giovannucci E, Chan A, Fuchs C, <u>Ogino S</u> , Nishihara R: Tumor SQSTM1 (p62) expression and T cells in colorectal cancer. <i>OncImmunology</i> (in press) 査読有
3◎	※Mehta RS, Nishihara R, Cao Y, Song M, <u>Mima K</u> , Qian ZR, Nowak JA, <u>Kosumi K</u> , Hamada T, Masugi Y, Bullman S, Drew DA, Kostic AD, Fung TT, Garrett WS, Huttenhower C, Wu K, Meyerhardt JA, Zhang X, Willett WC, Giovannucci EL, Fuchs CS, Chan AT, <u>Ogino S</u> . Association of Dietary Patterns With Risk of Colorectal Cancer Subtypes Classified by Fusobacterium Nucleatum in Tumor Tissue. <i>JAMA Oncol</i> . 2017 in press (published online). 査読有
4◎	※Drew DA, Nishihara R, Lochhead P, Kuchiba A, Qian ZR, <u>Mima K</u> , Noshio K, Wu K, Wang M, Giovannucci E, Fuchs CS, Chan AT, <u>Ogino S</u> . A Prospective Study of Smoking and Risk of Synchronous Colorectal Cancers. <i>Am J Gastroenterol</i> . 2017 in press (published online). 査読有
5◎	※Masugi Y, Nishihara R, Yang J, <u>Mima K</u> (co-first author), Silva A, Shi Y, Inamura K, Cao Y, Song M, Nowak JA, Liao X, Noshio K, Chan AT, Giannakis M, Bass AJ, Hodi FS, Freeman GJ, Rodig S, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> . Tumour CD274 (PD-L1) expression and T cells in colorectal cancer. <i>Gut</i> . 2016 in press (published online). 査読有
6◎	※Zhou L, <u>Baba Y</u> , Kitano Y, Miyake K, Zhang X, Yamamura K, <u>Kosumi K</u> , Kaida T, Arima K, Taki K, <u>Higashi T</u> , Imai K, Hashimoto D, Yamashita Y, Chikamoto A, Beppu T, <u>Tan X</u> , <u>Baba H</u> : KRAS, BRAF, PIK3CA Mutations, and Patient Prognosis in 126 Pancreatic Cancers: Pyrosequencing Technology and Literature Review. <i>Med Oncol</i> 33(4):32, 2016. 査読有
7◎	※Yang S, Inamura Y, Jenkins R, Canadas I, Kitajima S, Aref A R, Brannon LA, Oki E, Castoreno A, Zhu Z, Thai T, Reibel J, Qian Z, <u>Ogino S</u> , Wong K, <u>Baba H</u> , Kimmelman CA, Magliano M, Barbie DA: Autophagy inhibition dysregulates TBK1 signaling and promotes pancreatic inflammation. <i>Cancer Immunol Res</i> 4(6):520-30, 2016. 査読有
8◎	※ <u>Harada K</u> , Kaya MD, Shimodaira Y, Song S, <u>Baba H</u> , <u>Ajani JA</u> : Proteomics approach to identify biomarkers for upper gastrointestinal cancer. <i>Expert Rev Proteomics</i> 13(11), 2016. 査読有
9◎	※ <u>Nakagawa S</u> , Wei L, Won MS, <u>Higashi T</u> , Ghoshal S, Kim SR, Bian CB, Yamada S, Sun X, Venkatesh A, Goossens N, Brain G, Gregory LY, Koh A, EL-Abtah M, Ahmad BN, Hoshida H, Erstad JD, Gunasekaran G, Lee Y, Yu ML, Chuang W-L, Dai C-Y, Kobayashi M, Kumada H, Beppu T, <u>Baba H</u> , Mahajan M, Nair V, Lanuti M, Villanueva A, Sangiovanni A, Iavarone M, Colombo M, Llovet MJ, Subramanian A, Tager MA, Friedman SL, Baumert TF, Schwarz ME, Chung RT, Tanabe K, Zhang B, Fuchs CB, <u>Hoshida Y</u> : Molecular liver cancer prevention in cirrhosis by organ transcriptome analysis and lysophosphatidic acid pathway inhibition. <i>Cancer Cell</i> 30(6):879-90, 2016. 査読有
10◎	※ <u>Mima K</u> , Nishihara R, Yang J, Dou R, Masugi Y, Shi Y, da Silva A, Cao Y, Song M, Nowak J, Gu M, Li W, Morikawa T, Zhang X, Wu K, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> : MicroRNA MIR21 (miR-21) and PTGS2 Expression in Colorectal Cancer and Patient Survival. <i>Clin Cancer Res</i> 22(15):3841-8, 2016. 査読有
11◎	※ <u>Miyamoto Y</u> , Hanna DL, Zhang W, <u>Baba H</u> , <u>Lenz HJ</u> : Molecular Pathways: Cachexia Signaling-A Targeted Approach to Cancer Treatment. <i>Clin Cancer Res</i> 22(16):3999-4004, 2016. 査読有
12◎	※ <u>Mima K</u> , Nishihara R, Nowak JA, Kim SA, Song M, Inamura K, Sukawa Y, Masuda A, Yang J, Dou R, Noshio K, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Bowden M, Loda M, Giannakis M, Bass AJ, Dranoff G, Freeman GJ, Chan AT, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> : MicroRNA MIR21 and T cells in colorectal cancer. <i>Cancer Immunol Res</i> 4(1):33-40, 2016. 査読有

13◎	※Ishimoto T, <u>Baba H</u> , Izumi D, Sugihara H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Tan P</u> : Current perspectives towards the identification of key players in gastric cancer microRNA dysregulation. <i>Int J Cancer</i> 138(6):1337-49, 2016. 査読有
14◎	※Izumi D, Ishimoto T, Miyake K, Sugihara H, Eto K, Sawayama H, Yasuda T, Kiyozumi Y, Kaida T, Kurashige J, Imamura Y, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, Takamori H, Araki N, <u>Tan P</u> , <u>Baba H</u> : CXCL12/CXCR4 activation by cancer-associated fibroblasts promotes integrin ss1 clustering and invasiveness in gastric cancer. <i>Int J Cancer</i> 138(5):1207-19, 2016. 査読有
15◎	※Kurashige J, Hasegawa T, Niida A, Sugimachi K, Deng N, <u>Mima K</u> , Uchi R, Sawada G, Takahashi Y, Eguchi H, Inomata M, Kitano S, Fukagawa T, Sasako M, Sasaki H, Sasaki S, Mori M, Yanagihara K, <u>Baba H</u> , Miyano S, <u>Tan P</u> , Mimori K: Integrated Molecular Profiling of Human Gastric Cancer Identifies DDR2 as a Potential Regulator of Peritoneal Dissemination. <i>Sci Rep</i> 6(22371), 2016. 査読有
16◎	※ <u>Mima K</u> , Nowak AJ, Qian Z, Cao Y, Song M, Masugi Y, Shi Y, da Silva A, Gu M, Li W, Hamada T, Zhang X, Wu K, Meyerhardt J, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Nishihara R: Tumor LINE-1 methylation level and colorectal cancer location in relation to patient survival. <i>Oncotarget</i> 7(34):55098-109, 2016. 査読有
17◎	※ <u>Mima K</u> , Cao Y, Chan AT, Qian ZR, Nowak JA, Masugi Y, Shi Y, Song M, Da Silva A, Gu M, Li W, Hamada T, <u>Kosumi K</u> , Hanyuda A, Liu L, Kostic AD, Giannakis M, Bullman S, Brennan C, Milner DA, <u>Baba H</u> , Garraway LA, Meyerhardt JA, Garrett WS, Huttenhower C, Meyerson M, Giovannucci EL, Fuchs CS, Nishihara R, <u>Ogino S</u> : Fusobacterium nucleatum in Colorectal Carcinoma Tissue according to Tumor Location. <i>Clin Transl Gastroenterol</i> 3(7):11, 2016. 査読有
18◎	※ <u>Miyamoto Y</u> , <u>Lenz H-J</u> , <u>Baba H</u> : A novel antimetabolite: TAS-102 for metastatic colorectal cancer. <i>Expert Rev Clin Pharmacol</i> 9(3):355-65, 2016. 査読有
19◎	※Dou R, Nishihara R, Cao Y, Hamada T, <u>Mima K</u> , Masuda A, Masugi Y, Shi Y, Gu M, Li W, da Silva A, Noshio K, Zhang X, Meyerhardt JA, Giovannucci EL, Chan AT, Fuchs CS, Qian ZR, <u>Ogino S</u> , MicroRNA let-7, T Cells, and Patient Survival in Colorectal Cancer. <i>Cancer Immunol Res</i> . 2016;4:927-935. 査読有
20◎	※Qian ZR, Li T, Ter-Minassian M, Yang J, Chan JA, Brais LK, Masugi Y, Thiaglingam A, Brooks N, Nishihara R, Bonnemarie M, Masuda A, Inamura K, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Dou R, Lin X, Christiani DC, Schmidlin F, Fuchs CS, Mahmood U, <u>Ogino S</u> , Kulke MH. Association Between Somatostatin Receptor Expression and Clinical Outcomes in Neuroendocrine Tumors. <i>Pancreas</i> . 2016;45:1386-1393. 査読有
21◎	※Cao Y, Nishihara R, Qian ZR, Song M, <u>Mima K</u> , Inamura K, Nowak JA, Drew DA, Lochhead P, Noshio K, Morikawa T, Zhang X, Wu K, Wang M, Garrett WS, Giovannucci EL, Fuchs CS, Chan AT, <u>Ogino S</u> . Regular Aspirin Use Associates with Lower Risk of Colorectal Cancers With Low Numbers of Tumor-infiltrating Lymphocytes. <i>Gastroenterology</i> . 2016;151:879-892. 査読有
22◎	※Giannakis M, Mu XJ, Shukla SA, Qian ZR, Cohen O, Nishihara R, Bahl S, Cao Y, Amin-Mansour A, Yamauchi M, Sukawa Y, Stewart C, Rosenberg M, <u>Mima K</u> , Inamura K, Noshio K, Nowak JA, Lawrence MS, Giovannucci EL, Chan AT, Ng K, Meyerhardt JA, Van Allen EM, Getz G, Gabriel SB, Lander ES, Wu CJ, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Garraway LA. Genomic Correlates of Immune-Cell Infiltrates in Colorectal Carcinoma. <i>Cell Rep</i> . 2016;15:857-865. 査読有
23◎	※Song M, Nishihara R, Cao Y, Chun E, Qian ZR, <u>Mima K</u> , Inamura K, Masugi Y, Nowak JA, Noshio K, Wu K, Wang M, Giovannucci E, Garrett WS, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Chan AT. Marine ω-3 Polyunsaturated Fatty Acid Intake and Risk of Colorectal Cancer Characterized by Tumor-Infiltrating T Cells. <i>JAMA Oncol</i> . 2016;2:1197-1206. 査読有
24◎	※Hanyuda A, <u>Ogino S</u> , Rong Qian Z, Nishihara R, Song M, <u>Mima K</u> , Inamura K, Masugi Y, Wu K, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, Giovannucci EL, Cao Y. Body mass index and risk of colorectal cancer according to tumor lymphocytic infiltrate. <i>Int J Cancer</i> . 2016;139:854-68. 査読有
25◎	※Kim SA, Inamura K, Yamauchi M, Nishihara R, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Li T, Yasunari M, Morikawa T, Fitzgerald KC, Fuchs CS, Wu K, Chan AT, Zhang X, <u>Ogino S</u> , Qian ZR. Loss of CDH1 (E-cadherin) expression is associated with infiltrative tumour growth and lymph node metastasis. <i>Br J Cancer</i> . 2016;114:199-206. 査読有
26◎	※Inamura K, Song M, Jung S, Nishihara R, Yamauchi M, Lochhead P, Qian ZR, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Masuda A, Inamura Y, Zhang X, Pollak MN, Mantzoros CS, Harris CC, Giovannucci E, Fuchs CS, Cho E, Chan AT, Wu K, <u>Ogino S</u> . Prediagnosis Plasma Adiponectin in Relation to Colorectal Cancer Risk According to KRAS Mutation Status. <i>J Natl Cancer Inst</i> . 2015;108. pii: djv363. doi: 10.1093/jnci/djv363. 査読有
27◎	※Hanyuda A, Kim SA, Martinez-Fernandez A, Qian ZR, Yamauchi M, Nishihara R, Morikawa T, Liao X, Inamura K, <u>Mima K</u> , Cao Y, Zhang X, Wu K, Chan AT, Giovannucci EL, Meyerhardt JA, Fuchs CS, Shivdasani RA, <u>Ogino S</u> . Survival Benefit of Exercise Differs by Tumor IRS1 Expression Status in Colorectal Cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> . 2016;23:908-17. 査読有
28◎	※McCleary NJ, Sato K, Nishihara R, Inamura K, Morikawa T, Zhang X, Wu K, Yamauchi M, Kim SA, Sukawa Y, <u>Mima K</u> , Qian ZR, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> , Meyerhardt JA. Prognostic utility of molecular factors by age at diagnosis of colorectal cancer. <i>Clin Cancer Res</i> . 2016;22:1489-98.

29◎	※ <u>Mima K</u> , Nishihara R, Qian ZR, Cao Y, Sukawa Y, Nowak JA, Yang J, Dou R, Masugi Y, Song M, Kostic AD, Giannakis M, Bullman S, Milner DA, <u>Baba H</u> , Giovannucci EL, Garraway LA, Freeman GJ, Dranoff G, Garrett WS, Huttenhower C, Meyerson M, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, <u>Ogino S</u> . Fusobacterium nucleatum in colorectal carcinoma tissue and patient prognosis. <i>Gut</i> . 2016;65: 1973-1980.
30◎	※Song M, Nishihara R, Wang M, Chan AT, Qian ZR, Inamura K, Zhang X, Ng K, Kim SA, <u>Mima K</u> , Sukawa Y, Noshio K, Fuchs CS, Giovannucci EL, Wu K, <u>Ogino S</u> . Plasma 25-hydroxyvitamin D and colorectal cancer risk according to tumor immunity status. <i>Gut</i> . 2016;65:296-304. 査読有
31◎	※Lu H, Rogowskyj J, Yu W, Venkatesh A, Khan N, <u>Nakagawa S</u> , Goossens N, Koh AP, <u>Higashi T</u> , Gunasekaran G, Schwarz ME, Hiotis SP, Xu X, Kinney W, <u>Hoshida Y</u> , Block T, Cuconati A, Du Y. Novel substituted aminothiazoles as potent and selective anti-hepatocellular carcinoma agents. <i>Bioorg Med Chem Lett</i> . 2016 Dec 1;26(23):5819-5824. 査読有
32◎	※Bollard J, Miguela V, Ruiz de Galarreta M, Venkatesh A, Bian CB, Roberto MP, Tovar V, Sia D, Molina-Sánchez P, Nguyen CB, <u>Nakagawa S</u> , Llovet JM, <u>Hoshida Y</u> , Lujambio A. Palbociclib (PD-0332991), a selective CDK4/6 inhibitor, restricts tumour growth in preclinical models of hepatocellular carcinoma. <i>Gut</i> . 2016 Nov 14. pii: gutjnl-2016-312268. 査読有
33◎	※Goossens N, <u>Hoshida Y</u> , Song WM, Jung M, Morel P, <u>Nakagawa S</u> , Zhang B, Frossard JL, Spahr L, Friedman SL, Negro F, Rubbia-Brandt L, Giostra E. Nonalcoholic Steatohepatitis Is Associated With Increased Mortality in Obese Patients Undergoing Bariatric Surgery. <i>Clin Gastroenterol Hepatol</i> . 2016 Nov;14(11):1619-1628. 査読有
34◎	※Tan PS, <u>Nakagawa S</u> (co-first author), Goossens N, Venkatesh A, Huang T, Ward SC, Sun X, Song WM, Koh A, Canasto-Chibuque C, Deshmukh M, Nair V, Mahajan M, Zhang B, Fiel MI, Kobayashi M, Kumada H, <u>Hoshida Y</u> . Clinicopathological indices to predict hepatocellular carcinoma molecular classification. <i>Liver Int</i> . 2016 36(1):108-18. 査読有
35◎	※Huang KK, Jang KW, Kim S, Kim HS, Kim SM, Kwon HJ, Kim HR, Yun HJ, Ahn MJ, Park KU, Ramnarayanan K, McPherson JR, Zhang S, Rhee JK, Vettore AL, Das K, <u>Ishimoto T</u> , Kim JH, Koh YW, Kim SH, Choi EC, Teh BT, Rozen SG, Kim TM, <u>Tan P</u> , Cho BC. Exome sequencing reveals recurrent REV3L mutations in cisplatin-resistant squamous cell carcinoma of head and neck. <i>Sci Rep</i> . 2016 21;6:19552. 査読有
36◎	※Berger MD, Yang D, Sunakawa Y, Zhang W, Ning Y, Matsusaka S, Okazaki S, <u>Miyamoto Y</u> , Suenaga M, Schirripa M, Lenz AM, Bohanes P, Barzi A, Figueiredo JC, Hanna DL, <u>Lenz HJ</u> . Impact of sex, age, and ethnicity/race on the survival of patients with rectal cancer in the United States from 1988 to 2012. <i>Oncotarget</i> . 2016 16;7(33):53668-53678. 査読有
37◎	※ <u>Miyamoto Y</u> , Zhang W. & <u>Lenz HJ</u> . Molecular Landscape and Treatment Options for Patients with Metastatic Colorectal Cancer. <i>Indian J. Surg. Oncol</i> .2016 査読有
38◎	※Matsusaka S, Hanna DL, Cao S, Zhang W, Yang D, Ning Y, Sunakawa Y, Okazaki S, Berger MD, <u>Miyamoto Y</u> , Parekh A, Stintzing S, Loupakis F, <u>Lenz HJ</u> *. Prognostic Impact of IL6 Genetic Variants in Patients with Metastatic Colorectal Cancer Treated with Bevacizumab-Based Chemotherapy. <i>Clin Cancer Res</i> 2016 22, 3218-3226 査読有
39◎	※Ning Y, Zhang W, Hanna D.L, Yang D, Okazaki S, Berger M.D., <u>Miyamoto Y</u> , Suenaga M, Schirripa M, El-Khoueiry A, <u>Lenz H.-J</u> . Clinical relevance of EMT and stem-like gene expression in circulating tumor cells of metastatic colorectal cancer patients. <i>Pharmacogenomics J</i> . 2016 9. doi: 10.1038/tpj.2016.62. [Epub ahead of print]
40◎	※Mitsukuni S, Schirripa S, Cao S, Zhang W, Yang D, Murgioni S, Rossini D, Marmorino F, Mennitto A, Ning Y, Okazaki S, Berger M.D, <u>Miyamoto Y</u> , Gopez R, Barzi A, Yamaguchi T, Loupakis F, <u>Lenz H.-J</u> . Genetic variants of DNA repair-related genes predict efficacy of TAS-102 in patients with refractory metastatic colorectal cancer. <i>Ann Oncol</i> . 2017 Feb 9. doi: 10.1093/annonc/mdx035. [Epub ahead of print]
41○	※Imai K, Benitez C, MA A, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Potential of a cure in patients with colorectal liver metastases and concomitant extrahepatic disease. <i>J Surg Oncol</i> (in press). 査読有
42○	※Imai K, Allard AM, Benitez CC, Vibert E, Cunha SA, Cherqui D, Castaing D, <u>Baba H</u> , Adam R: Long-term outcomes of radiofrequency ablation combined with hepatectomy compared to hepatectomy alone for colorectal liver metastases. <i>Br J Surg</i> (Doi: 10.1002/bjs.10447, in press) 査読有
43○	※Tokunaga R, Imamura Y, Nakamura K, <u>Ishimoto T</u> , <u>Nakagawa S</u> , Miyake K, Nakaji Y, Tsuda Y, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Saeki H, Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Oda Y, Bass AJ, Maehara Y, <u>Baba H</u> : Fibroblast growth factor receptor 2 expression, but not its genetic amplification, is associated with tumor growth and worse survival in esophagogastric junction adenocarcinoma. <i>Oncotarget</i> 7(15):19748-61, 2016. 査読有
44○	※Okabe H, Kinoshita H, Imai K, <u>Nakagawa S</u> , <u>Higashi T</u> , Arima K, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Ishiko T, Yoshizumi T, Beppu T, Monga SP, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Diverse basis of β -catenin activation in human hepatocellular carcinoma: Implications in biology and prognosis. <i>PLOS ONE</i> 11(4):e0152695, 2016. 査読有

45○	※Okabe H, Yang J, Sylakowski K, Yovchev M, Miyagawa Y, Nagarajan S, Chikina M, Oertel M, <u>Baba H</u> , Singh Monga S, Nejak-Browen K: Wnt signaling regulates hepatobiliary repair following cholestatic liver injury in mice. <i>Hepatology</i> 64(5):1652-1666, 2016. 査読有
46○	※Adam R, Imai K, Castro Benitez C, Allard MA, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, <u>Baba H</u> , Castaing D: Outcome after associating liver partition and portal vein ligation for staged hepatectomy and conventional two-stage hepatectomy for colorectal liver metastases. <i>Br J Surg</i> 103(11):1521-9, 2016. 査読有
47○	※Imai K, Allard M-A, Castro Benitez C, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Nomogram for prediction of prognosis in patients with initially unresectable colorectal liver metastases. <i>Br J Surg</i> 103(5):590-599, 2016. 査読有
48○	※Imai K, Allard M-A, Benitez CC, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, <u>Baba H</u> , Adam R: Early recurrence after hepatectomy for colorectal liver metastases: What optimal definition and what predictive factors? <i>Oncologist</i> 21(7):887-94, 2016. 査読有
49	※Chikamoto A, Hashimoto D, Uchihara T, Sakamoto K, Taki K, Kuroki H, Sakata K, Hayashi H, Nitta H, Imai K, Beppu T, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Portal vein embolization through the round ligament of the liver. <i>Hepato-Gastroenterol</i> (in press) 査読有
50	※Takeyama H, Hashimoto D, Ikeda K, Chikamoto A, Hayashi H, Beppu T, Suzuki M, <u>Baba H</u> : Comparison of KRAS status of resected lung metastasis and primary pancreatic cancer. <i>Hepato-Gastroenterol</i> (in press) 査読有
51	※Akagi J, <u>Baba H</u> , Sekine T, Ogawa K: CD57-related CD8+ T lymphocytes are highly associated with the efficacy of immunotherapy using activated autologous lymphocytes. (in press) 査読有
52	※Miyata T, Yamashita Y, Yamao T, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Kaida T, <u>Nakagawa S</u> , Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Asato T, Mikami Y, Aishima S, <u>Baba H</u> : Hepatocellular carcinoma developed with Angiomyolipoma. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> (in press) 査読有
53	※Yamamura K, <u>Baba Y</u> , Miyake K, Nakamura K, Shigaki H, <u>Mima K</u> , Kurashige J, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yamashita Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Fusobacterium nucleatum in gastroenterological cancers: Measuring method using quantitative real-time PCR and literature review. <i>Oncol Lett</i> (in press) 査読有
54	※Yoshida N, Eto K, <u>Baba Y</u> , Hiyoshi Y, Watanabe M, Kurashige J, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Baba H</u> : Short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer patients with a history of gastrectomy. <i>Hepato-Gastroenterol</i> (in press) 査読有
55	※Arima K, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Nitta H, <u>Higashi T</u> , Kaida T, Yamamura K, Kitano Y, Komohara Y, Yamashita Y, Beppu T, Takeya M, <u>Baba H</u> : Neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts metachronous liver metastasis of pancreatic neuroendocrine tumors. <i>Int J Clin Oncol</i> (in press). 査読有
56	※Yamashita Y, Tsujita E, Chikamoto A, Imai K, Kaida T, Yamao T, Umezaki N, <u>Nakagawa S</u> , Hashimoto D, <u>Baba H</u> : Linear stapling device with pre-attached bioabsorbable polyglycolic acid felt reduces postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy. <i>Anticancer Res</i> (in press). 査読有
57	※Hayashi H, Kuroki H, <u>Higashi T</u> , Takeyama H, Yokoyama N, Okabe H, Nitta H, Beppu T, Takamori H, <u>Baba H</u> : TSP-1 expression may be implicated in liver atrophic mechanism due to obstructed portal venous flow. <i>Hepato Res</i> (Doi: 10.1111/hepr.12792, in press) 査読有
58	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : The utility of tumor markers combination, including serum P53 antibody, in colorectal cancer treatment. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-016-1464-8, in press) 査読有
59	※Hayashi H, Kuroki H, <u>Higashi T</u> , Takeyama H, Yokoyama N, Okabe H, Nitta H, Beppu T, Takamori H, <u>Baba H</u> : Thrombospondin-1 expression may be implicated in liver atrophic mechanism due to obstructed portal venous flow. <i>Hepato Res</i> (Doi: 10.1111/hepr.12792, in press) 査読有
60	※ <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Kinoshita K, Iwatsuki M, Yamashita Y, Chikamoto A, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Clinical and prognostic features of patients with esophageal cancer and multiple primary cancers: a retrospective single institution study. <i>Ann Surg</i> (Doi: 10.1097/SLA.0000000000002118, in press) 査読有
61	※Tamura K, Aiba K, Saeki T, Nakanishi Y, Kamura T, <u>Baba H</u> , Yoshida K, Yamamoto N, Kitagawa Y, Maehara Y, Shimokawa M, Hirata K, Kitajima M: Breakthrough chemotherapy-induced nausea and vomiting: report of a nationwide survey by the CINV Study Group of Japan. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-016-1069-7, in press) 査読有

62	※Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Morikatsu Y, Taki K, Arima K, Imai K, Tamura Y, Ikeda O, Ishiko T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Yamashita Y, Yoshizumi T, Beppu T, Yamashita Y, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Shape and enhancement characteristics of pancreatic neuroendocrine tumor on preoperative contrast-enhanced computed tomography may be prognostic indicators. <i>Ann Surg Oncol</i> (Doi: 10.1245/s10434-016-5630-4, in press) 査読有
63	※Kumai Y, Yoshida N, Kamenosono Y, Matsubara K, Samejima Y, <u>Baba H</u> , Yumoto E: Effects of chin-down maneuver on the parameters of swallowing function following esophagectomy with three-field lymphadenectomy examined by videofluoroscopy. <i>Arch Phys Med Rehabil</i> (Doi: 10.1016/j.apmr.2016.11.005, in press) 査読有
64	※Kaida T, Nitta H, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, <u>Higashi T</u> , Taki K, <u>Nakagawa S</u> , Okabe H, Hayashi H, Imai K, Hashimoto D, Yamashita Y, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Preoperative platelet-to-lymphocyte ratio can predict recurrence beyond the Milan criteria after hepatectomy for patients with hepatocellular carcinoma. <i>Hepatol Res</i> (Doi: 10.1111/hepr.12835, in press) 査読有
65	※Kuramoto M, Ikeshima S, Yamamoto K, Morita K, Uchihara T, Itouyama R, Yoshimatsu S, Shimada S, <u>Baba H</u> : The intentional oblique transection double stapling technique in anterior resection for rectal cancer. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-016-1382-9, in press). 査読有
66	※Nakamura K, Yoshida N, <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , Uchihara T, Kiyozumi Y, Ohuchi M, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Elevated preoperative neutrophil-to-lymphocytes ratio predicts poor prognosis after esophagectomy in T1 esophageal cancer. <i>Int J ClinOncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-017-1090-5, in press) 査読有
67	※Taki K, Daisuke H, <u>Nakagawa S</u> , Ozaki N, Tomiyasu S, Ohmuraya M, Arima K, <u>Higashi T</u> , Sakamoto K, Sakata K, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Chikamoto A, Beppu T, Takamori H, Hirota M, <u>Baba H</u> : Significance of lymph node metastasis in pancreatic neuroendocrine tumor. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-017-1485-y, in press) 査読有
68	※Beppu T, Imai K, Okuda K, Eguchi S, Kitahara K, Taniai N, Ueno S, Shirabe K, Ohta M, Kondo K, Nanashima A, Noritomi T, Shiraishi M, Takami Y, Okamoto K, Kikuchi K, <u>Baba H</u> , Fujioka H: Anterior Approach for Right Hepatectomy with Hanging Maneuver for Hepatocellular Carcinoma: A Multi-Institutional Propensity Score-Matching Study <i>J Hepatobiliary Pancreat Sci</i> (Doi: 10.1002/jhbp.431, in press) 査読有
69	※Yoshida N, <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , Iwatsuki M, Kinoshita K, Nakamura K, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Karashima R, <u>Mima K</u> , Sawayama H, Ohuchi M, Chikamoto A, Imamura Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Preoperative controlling nutritional status (CONUT) is useful to estimate the prognosis after esophagectomy for esophageal cancer. <i>Langenbeck Archiv Surg</i> (Doi: 10.1007/s00423-017-1553-1, in press) 査読有
70	※Chikamoto A, Inoue R, Komohara Y, Sakamaki K, Hashimoto D, Shiraishi S, Takamori H, Yamashita Y, Yoshida N, Yamanaka T, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Preoperative high maximum standardized uptake value in association with glucose transporter 1 predicts poor prognosis in pancreatic cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> (Doi: 10.1245/s10434-017-5799-1, in press) [Epub ahead of print] 査読有
71	※Maehara Y, Shirabe K, Kohno S, Emi Y, Oki E, Kakeji Y, <u>Baba H</u> , Ikeda M, Kobayashi M, Takayama T, Natsugoe S, Haraguchi M, Yoshida K, Terashima M, Sasako M, Yamaue H, Kokudo N, Uesaka K, Uemoto S, Kosuge T, Sawa Y, Shimada M, Doki Y, Yamamoto M, Taketomi A, Takeuchi M, Akazawa K, Yamanaka T, Shimokawa M: Impact of intra-abdominal absorbable sutures on surgical site infection in gastrointestinal and hepato-biliary-pancreatic surgery. <i>Surg Today</i> (Doi: 10.1007/s00595-017-1480-3.) 査読有
72	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Izumi D, <u>Kosumi K</u> , Taki K, <u>Higashi T</u> , Miyata T, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Comparison of systemic inflammatory and nutritional scores in colorectal cancer patients who underwent potentially curative resection. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-017-1102-5, in press) 査読有
73	※ <u>Harada K</u> , Mizrak Kaya D, Shimodaira Y, Song S, <u>Baba H</u> , Ajani JA: Translating genomic profiling to gastrointestinal cancer treatment. <i>Future Oncol</i> (Doi: 10.2217/fon-2016-0422, in press) 査読有
74	※ <u>Baba Y</u> , Saeki H, Nakamura Y, Oki E, Shigaki H, Yoshida N, Watanabe M, Maehara Y, <u>Baba H</u> : Review of chemotherapeutic approaches for operable and inoperable esophageal squamous cell carcinoma. <i>Dis Esophagus</i> 30(2):1-7, 2017. 査読有
75	※ <u>Baba H</u> , Yamada Y, Takahari D, Matsumoto H, Yoshida K, Nakamura M, Yoshida M, Iwamoto S, Shimada K, Komatsu Y, Sasaki Y, Satoh T, Takahashi K, Mishima H, Muro K, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shimada Y, Sugihara K: S-1 and oxaliplatin (SOX) plus bevacizumab versus mFOLFOX6 plus bevacizumab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer: updated overall survival analyses of the open-label, non-inferiority, randomized phase 3: SOFT study. <i>ESMO Open</i> (Doi: DOI: 10.1136/esmoopen-2016-000135 in press), 2017. 査読有
76	※Yamashita Y, Imai K, Tsujita E, Kaida T, Yamao Y, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Miyata T, <u>Nakagawa S</u> , Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u> : Selective venous occlusions for reducing blood loss during right anterior sectionectomy of the liver for hepatocellular carcinoma. <i>J Am Coll Surg</i> 224(2):e5-9, 2017. 査読有

77	※Hiyoshi Y, Yoshida N, Watanabe M, Kurashige J, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Baba H</u> : The presence of serum p53 antibody predicts the pathological tumor response to neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin and fluorouracil (DCF) in esophageal squamous cell carcinoma. <i>World J Surg</i> 2017(41):480-6, 2017. 査読有
78	※ <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> , Yamamoto S, Shimada H, Shibata T, Miyazaki T, Yoshikawa T, Nakajima Y, Tsuji Y, Shimokawa M, Kitagawa Y, Aiba K: Chemotherapy-induced nausea and vomiting is less controlled at delayed phase in patients with esophageal cancer: a prospective registration study by the CINV Study Group of Japan. <i>Dis Esophagus</i> 2017(30):1-7, 2017. 査読有
79	※Kitano Y, Iwatsuki M, Kurashige J, Kuroda D, <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Haga Y, <u>Baba H</u> : Estimation of physiologic ability and surgical stress (E-PASS) versus modified E-PASS for prediction of postoperative complications in elderly patients who undergo gastrectomy for gastric cancer. <i>Int J Clin Oncol</i> 2017(22):80-7, 2017. 査読有
80	※Nitta H, <u>Nakagawa S</u> , Kaida T, Arima K, <u>Higashi T</u> , Taki K, Okabe H, Hayashi H, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Pre-treatment double- or triple-positive tumor markers are predictive of a poor outcome for patients undergoing radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma. <i>Surg Today</i> 2017(47):375-84, 2017. 査読有
81	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Ohuchi M, Izumi D, <u>Kosumi K</u> , Taki K, <u>Higashi T</u> , <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, <u>Baba H</u> : CONUT: a novel independent predictive score for colorectal cancer patients undergoing potentially curative resection. <i>Int J Colorectal Dis</i> 32(1):99-106, 2017. 査読有
82	※Yagi T, Hashimoto D, Taki K, Yamamura K, Chikamoto A, Ohmuraya M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Surgery for metastatic tumors of the pancreas. <i>Surg Case Rep</i> 2017(3):31, 2017. 査読有
83	※Kitano Y, Kuramoto M, Masuda T, Kuroda D, Yamamoto K, Ikeshima S, Iyama K-I, Shimada S, <u>Baba H</u> : Ascending colon cancer with synchronous external iliac and inguinal lymph node metastases but without regional lymph node metastasis: a case report and brief literature review. <i>Surg Case Rep</i> 2017(3):32, 2017. 査読有
84	※Yamamura S, Oda S, Imuta M, Utsunomiya D, Yoshida M, Namimoto T, Yuki H, Kidoh M, Funama Y, <u>Baba H</u> , Yamashita Y: Reducing the radiation dose for CT colonography: Effect of low tube voltage and iterative reconstruction. <i>Acad Radiol</i> 23(2):155-62, 2016. 査読有
85	※Chikamoto A, Kaida T, Arima K, <u>Higashi T</u> , Taki K, Ida S, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Hashimoto D, Watanabe M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Heat injury to the inferior vena cava by bipolar tissue sealer. <i>Surg Endosc</i> 30(4):1519-22, 2016. 査読有
86	※Taki K, Ohmuraya M, Tanji E, Komatsu H, Hashimoto D, Semba K, Araki K, Kawaguchi Y, <u>Baba H</u> , Furukawa T: GNAS ^{R201H} and Kras ^{G12D} cooperate to promote murine pancreatic tumorigenesis recapitulating human intraductal papillary mucinous neoplasm. <i>Oncogene</i> 35(18):2407-12, 2016. 査読有
87	※Oki E, Tokunaga S, Emi Y, Kusumoto T, Yamamoto M, Fukuzawa K, Takahashi I, Ishigami S, Tsuji A, Higashi H, Nakamura T, Saeki H, Shirabe K, Kakeji Y, Sakai K, <u>Baba H</u> , Nishimaki T, Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: Surgical treatment of liver metastasis of gastric cancer: a retrospective multicenter cohort study (KSCC1302). <i>Gastric Cancer</i> 19(3):968-76, 2016. 査読有
88	※Arima K, Hashimoto D, Okabe H, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Taki K, Nitta H, Hayashi H, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Intraoperative blood loss is not a predictor of prognosis for pancreatic cancer. <i>Surg Today</i> 46(7):792-7, 2016. 査読有
89	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Hiyoshi Y, Shigaki H, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Iwatsuki M, <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Sugihara H, <u>Harada K</u> , Tokunaga R, Izumi D, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Duration of smoking cessation and postoperative morbidity after esophagectomy for esophageal cancer - How long should patients stop smoking before surgery? <i>World J Surg</i> 40(1):142-7, 2016. 査読有
90	※Takatsuki M, Tokunaga S, Uchida S, Sakoda M, Shirabe K, Beppu T, Emi Y, Oki E, Ueno S, Eguchi S, Akagi Y, Ogata Y, <u>Baba H</u> , Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: Evaluation of resectability after neoadjuvant chemotherapy for primary non-resectable colorectal liver metastases: A multicenter study. <i>Eur J Surg Oncol</i> 42(2):184-9, 2016. 査読有
91	※Ueno M, Okusaka T, Omuro Y, Isayama H, Fukutomi A, Ikeda M, Mizuno N, Fukuzawa K, Furukawa M, Iguchi H, Sugimori K, Furuse J, Shimada K, Ioka T, Nakamori S, <u>Baba H</u> , Komatsu Y, Takeuchi M, Hyodo I, Boku N: A randomized phase II study of S-1 plus oral leucovorin versus S-1 monotherapy in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer <i>Ann Oncol</i> 27(3):502-8, 2016. 査読有
92	※ <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , Shigaki H, <u>Kosumi K</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : The role of microRNA in esophageal squamous cell carcinoma. <i>J Gastroenterol</i> 51(6):520-30, 2016. 査読有

93	※ <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Shigaki H, Iwatsuki M, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Prognostic impact of postoperative complications in 502 patients with surgically resected esophageal squamous cell carcinoma: A retrospective single institution study. <i>Ann Surg</i> 264(2):305-11, 2016. 査読有
94	※ Sugita H, Oda E, Hirota M, Ishikawa S, Tomiyasu S, Tanaka H, Arita T, Yagi Y, <u>Baba H</u> : Significance of lymphadenectomy with splenectomy in radical surgery for advanced (pT3/pT4) remnant gastric cancer. <i>Surgery</i> 159(4):1082-9, 2016. 査読有
95	※ Oki E, Murata A, Yoshida K, Maeda K, Ikejiri K, Munemoto Y, Sasaki K, Matsuda C, Kotake M, Suenaga T, Matsuda H, Emi Y, Kakeji Y, <u>Baba H</u> , Hamada C, Saji S, Maehara Y: A Randomized Phase III Trial Comparing S-1 Versus UFT as Adjuvant Chemotherapy for Stage II/III Rectal Cancer (JFMC35-C1: ACTS-RC). <i>Ann Oncol</i> 27(7):1266-72, 2016. 査読有
96	※ Uemura N, Kurashige J, <u>Kosumi K</u> , Iwatsuki M, Yamashita K, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Honda Y, <u>Baba H</u> : Early gastric cancer metastasizing to the rectum, possibly via a hematogenous route: a case report and review of literature. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):58, 2016. 査読有
97	※ Arima K, Okabe H, Hashimoto D, Chikamoto A, Tsuji A, Yamamura K, Kitano Y, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Taki K, Imai K, Komohara Y, Beppu T, Takeya M, <u>Baba H</u> : The diagnostic role of the neutrophil-to-lymphocyte ratio in predicting pancreatic ductal adenocarcinoma in patients with pancreatic diseases. <i>Int J Clin Oncol</i> 21(5):940-5, 2016. 査読有
98	※ <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , Kurashige J, Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Epigenetic field cancerization in gastrointestinal cancers. <i>Cancer Lett</i> 375(2):360-6, 2016. 査読有
99	※ Sakamoto Y, Tokunaga R, <u>Miyamoto Y</u> , Ohuchi M, Nakamura K, <u>Kosumi K</u> , <u>Harada K</u> , Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Retroileal colorectal anastomosis after extended left colectomy: application for laparoscopic surgery. <i>Surg Today</i> 46(12):1476-8, 2016. 査読有
100	※ Uchihara T, Imamura Y, Iwagami S, Kajihara I, Kanemaru H, Karashima R, Ida S, <u>Ishimoto T</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, Iyama K, Ihn H, <u>Baba H</u> : Small bowel perforation due to indistinguishable metastasis of angiosarcoma: case report and brief literature review. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):42, 2016. 査読有
101	※ Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Shigaki H, <u>Harada K</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Kurashige J, <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Risk factors of early recurrence within 6 months after esophagectomy following neoadjuvant chemotherapy for resectable advanced esophageal squamous cell carcinoma. <i>Int J Clin Oncol</i> 2016(21):1071-8, 2016. 査読有
102	※ Beppu T, Okabe H, Okuda K, Eguchi S, Kitahara K, Tani ai N, Ueno S, Shirabe K, Ohta M, Kondo K, Nanashima A, Noritomi T, Okamoto K, Kikuchi K, <u>Baba H</u> , Fujioka H: Portal Vein Embolization Followed by Right-Side Hemihepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Patients: A Japanese Multi-Institutional Study. <i>J Am Coll Surg</i> 222(6):1138-1148 e2, 2016. 査読有
103	※ Sato T, Hayakawa K, Tomita N, Noda M, Kamikonya N, Watanabe T, Kato D, Sakai Y, Hiraoka M, Shimada M, Ikushima H, <u>Baba H</u> , Oya N, Oya M, Nemoto-Murofushi K, Takeuchi M, Watanabe M: A multicenter phase I study of preoperative chemoradiotherapy with S-1 and irinotecan for locally advanced lower rectal cancer (SAMRAI-1). <i>Radiother Oncol</i> 120(2):222-7, 2016. 査読有
104	※ Takahashi T, Emi Y, Oki E, Kobayashi K, Tsuji A, Shimokawa M, Tanaka T, Akagi Y, Ogata Y, <u>Baba H</u> , Yoshida K, Natsugoe S, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical C: Multicenter phase II study of combination therapy with cetuximab and S-1 in patients with KRAS exon 2 wild-type unresectable colorectal cancer previously treated with irinotecan, oxaliplatin, and fluoropyrimidines (KSCC 0901 study). <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> 78(3):585-93, 2016. 査読有
105	※ Yamashita K, <u>Baba Y</u> , Kurashige J, Iwatsuki M, Imai K, Hashimoto D, Sakamoto Y, Chikamoto A, Yoshida N, Beppu T, <u>Baba H</u> : Co-occurrence of liver metastasis of gastrointestinal stromal tumor and hepatocellular carcinoma. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):1-3, 2016. 査読有
106	※ Yamamura K, <u>Baba Y</u> , <u>Nakagawa S</u> , <u>Mima K</u> , Miyake K, Nakamura K, Sawayama H, Kinoshita K, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Sakamoto Y, Yamashita Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Human microbiome <i>Fusobacterium nucleatum</i> in esophageal cancer tissue is associated with prognosis. <i>Clin Cancer Res</i> 22(22), 2016. 査読有
107	※ Akiyama T, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Tokunaga R, <u>Kosumi K</u> , Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Cancer-related multiple brain infarctions caused by Trousseau syndrome in a patient with metastatic colon cancer: a case report. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):91, 2016. 査読有
108	※ <u>Baba H</u> : Acknowledgement to reviewers. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):13, 2016. 査読有

109	※Okabe H, Yoshizumi T, Ikegami T, Uchiyama H, Harimoto N, Itoh S, Kimura K, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Salvage splenic artery embolization for saving failing living donor graft due to portal overflow. <i>Transplant Proc</i> 48(9):3171-3, 2016. 査読有
110	※Kaida T, Nitta H, Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Izumi D, <u>Higashi T</u> , Kurashige J, Imai K, Hayashi H, Iwatsuki M, <u>Ishimoto T</u> , Hashimoto D, Yamashita Y, Chikamoto A, Imamura T, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : C5a receptor (CD88) promotes motility and invasiveness of gastric cancer by activating RhoA. <i>Oncotarget</i> 7(51):84798-809, 2016. 査読有
111	※Yoshida N, Imamura Y, <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> : Pathogenesis of Acute Gastroesophageal Reflux Disease might be Changing. <i>Transl Cancer Res</i> 2016(5):645-7, 2016. 査読有
112	※Taki K, Hashimoto D, Ozaki N, Tomiyasu S, Yamamura K, Kitano Y, Arima K, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Imai K, Chikamoto A, Beppu T, Takamori H, Hirota M, <u>Baba H</u> : Significance of lymph node metastasis in pancreatic neuroendocrine tumor. <i>Pancreatology</i> 16(4):S1-192, 2016. 査読有
113	※Hashimoto D, Arima K, Chikamoto A, Taki K, Inoue R, Kaida T, <u>Higashi T</u> , Imai K, Beppu T, <u>Baba H</u> : Limited resection of the duodenum for non-ampullary duodenal tumors, with review of the literature. <i>Am Surg</i> 82(11):1126-32, 2016. 査読有
114	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Shigaki H, Shiraishi S, <u>Harada K</u> , Watanabe M, Iwatsuki M, Kurashige J, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Effect of Esophagegus Position on Surgical Difficulty and Postoperative Morbidities after Thoracoscopic Esophagectomy. <i>Semin Thorac Cardiovasc Surg</i> 28(1):172-9, 2016. 査読有
115	※Hironaka S, Sugimoto N, Yamaguchi K, Moriwaki T, Komatsu Y, Nishina T, Tsuji A, Nakajima TE, Gotoh M, Machida N, Bando H, Esaki T, Emi Y, Sekikawa T, Matsumoto S, Takeuchi M, Boku N, <u>Baba H</u> , Hyodo I: S-1 plus leucovorin versus S-1 plus leucovorin and oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin in patients with advanced gastric cancer: a randomised, multicentre, open-label, phase 2 trial. <i>Lancet Oncol</i> 17(1):99-108, 2016. 査読有
116	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Sakamoto A, <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Nakamura K, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Hino S, Nakao M, <u>Baba H</u> : Lysine-specific demethylase-1 contributes to malignant behavior by regulation of invasive activity and metabolic shift in esophageal cancer. <i>Int J Cancer</i> 138(2):428-39, 2016. 査読有
117	※Sakata K, Araki K, Nakano H, Nishina T, Komazawa-Sakon S, Murai S, Lee G, Hashimoto D, Suzuki C, Uchiyama Y, Notohara K, Gukovskaya A, Gukovsky I, Yamashita K, <u>Baba H</u> , Ohmuraya M: Novel method to rescue a lethal phenotype through integration of target gene onto the X-chromosome. <i>Sci Rep</i> 15(6):37200, 2016. 査読有
118	※Nakamura K, <u>Baba Y</u> , <u>Kosumi K</u> , <u>Harada K</u> , Shigaki H, Miyake K, Kurashige J, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, Yoshida N, Oki E, Watanabe M, Nakao M, <u>Baba H</u> : UHRF1 regulates global DNA hypomethylation and is associated with poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Oncotarget</i> 7(36):57821-31, 2016. 査読有
119	※Izumi D, Yoshida N, Watanabe M, Shiraishi S, <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Taki K, <u>Higashi T</u> , <u>Harada K</u> , Miyata T, Ida S, Imamura Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Tumor/normal esophagus ratio in ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for response and prognosis stratification after neoadjuvant chemotherapy for esophageal squamous cell carcinoma. <i>J Gastroenterol</i> 51(8):788-95, 2016. 査読有
120	※Imamura Y, Oki E, Ohgaki K, Nakashima Y, Ando K, Tsutsumi S, Tsurumaru D, Saeki H, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Real-time accurate identification of tumor site using a mobile X-ray image-intensifier system during laparoscopic gastrectomy. <i>J Am Coll Surg</i> 222(2):e1-7, 2016. 査読有
121	※Tokunaga R, Sakamoto Y, <u>Nakagawa S</u> , Miyake K, Izumi D, <u>Kosumi K</u> , Taki K, <u>Higashi T</u> , Imamura Y, <u>Ishimoto T</u> , Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, <u>Baba H</u> : The prognostic significance of histone lysine demethylase JMJD3/KDM6B in colorectal cancer. <i>Ann Surg Oncol</i> 23(2):678-85, 2016. 査読有
122	※Nomoto D, Hashimoto D, Motohara T, Chikamoto A, Nitta H, Beppu T, Katabuchi H, <u>Baba H</u> : Rapid growing cystic ovarian metastasis from pancreatic cancer. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 31(4):707, 2016. 査読有
123	※Kaida T, <u>Higashi T</u> , Kitano Y, Yamamura K, Arima K, Taki K, Imai K, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Namimoto T, Nakahara O, Beppu T, <u>Baba H</u> : Degenerative hepatic hemangioma mimicking biliary cystadenocarcinoma. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 31(8):1385, 2016. 査読有
124	※ <u>Harada K</u> , <u>Baba Y</u> , Shigaki H, <u>Ishimoto T</u> , Miyake K, <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Izumi D, Ohuchi M, Nakamura K, Kiyozumi Y, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Prognostic and clinical impact of PIK3CA mutation in gastric cancer: pyrosequencing technology and literature review. <i>BMC Cancer</i> 2016(16):400, 2016. 査読有

125	※Hashimoto D, Arima K, Yokoyama N, Chikamoto A, Taki K, Inoue R, Kaida T, Higashi T, Nitta H, Ohmuraya M, Hirota M, Beppu T, <u>Baba H</u> : Heterogeneity of KRAS Mutations in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. <i>Pancreas</i> 45(8):1111-4, 2016. 査読有
126	※Eto K, Yoshida N, Iwatsuki M, Kurashige J, Ida S, Ishimoto T, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, Miyamoto Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Surgical Apgar Score Predicted Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer. <i>World J Surg</i> 40(5):1145-51, 2016. 査読有
127	※Hiyoshi Y, Yoshida N, Watanabe M, Kurashige J, Karashima R, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , <u>Baba H</u> : Late recurrence after radical resection of esophageal cancer. <i>World J Surg</i> 40(4):913-20, 2016. 査読有
128	※Yoshida N, <u>Baba Y</u> , Shigaki H, <u>Harada K</u> , Iwatsuki M, Kurashige J, Sakamoto Y, Miyamoto Y, Ishimoto T, <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Imamura Y, Ida S, Hiyoshi Y, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Preoperative nutritional assessment by controlling nutritional status (CONUT) is useful to estimate postoperative morbidity after esophagectomy for esophageal cancer. <i>World J Surg</i> 40(8):1910-7, 2016. 査読有
129	※ <u>Higashi T</u> , Hayashi H, Kitano Y, Yamamura K, Kaida T, Arima K, Taki K, <u>Nakagawa S</u> , Okabe H, Nitta H, Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Statin attenuates cell proliferative ability via TAZ (WWTR1) in hepatocellular carcinoma. <i>Med Oncol</i> 33(11):123, 2016. 査読有
130	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Nakamura K, Ohuchi M, Kiyozumi Y, Izumi D, Tokunaga R, Taki K, <u>Higashi T</u> , Miyata T, Shigaki H, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Oki E, Watanabe M, <u>Baba H</u> : APOBEC3B is an enzymatic source of molecular alterations in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Med Oncol</i> 33(3):26, 2016. 査読有
131	※Nitta H, Shimose T, Emi Y, Imamura T, Ohnishi K, Kusumoto T, Yamamoto M, Fukuzawa K, Takahashi I, Higashi H, Tsuji A, Akagi Y, Oki E, Maehara Y, <u>Baba H</u> , Kyushu Study Group of Clinical Cancer ancillary s: Expression of the anaphylatoxin C5a receptor in gastric cancer: implications for vascular invasion and patient outcomes. <i>Med Oncol</i> 33(11):118, 2016. 査読有
132	※Masuda T, Kuramoto M, Tanimoto H, Yamamoto K, Ikeshima S, Kitano Y, Kuroda D, Shimada S, <u>Baba H</u> : Intraoperative baseline oxygen consumption as a prognostic factor in emergency open abdominal surgery. <i>J Crit Care</i> 1(32):42-7, 2016. 査読有
133	※Hashimoto D, Chikamoto A, Taki K, Arima K, Yamashita Y, Ohmuraya M, Hirota M, <u>Baba H</u> : Residual Total Pancreatectomy: Short- and Long-Term Outcomes. <i>Pancreatol</i> 16(4):646-51, 2016. 査読有
134	※Masuda T, Beppu T, Okabe H, Nitta H, Imai K, Hayashi H, Chikamoto A, Yamamoto K, Ikeshima S, Kuramoto M, Shimada S, <u>Baba H</u> : Predictive factors of pathological vascular invasion in hepatocellular carcinoma within 3 cm and 3 nodules without radiological vascular invasion. <i>Hepatol Res</i> 46(10):985-91, 2016. 査読有
135	※Hashimoto D, Chikamoto A, Arima K, Taki K, Inoue R, Imai K, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Unused sterile instruments for closure prevents wound surgical site infection after pancreatic surgery. <i>J Surg Res</i> 205(1):38-42, 2016. 査読有
136	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , Ozaki N, Akiyama T, <u>Harada K</u> , Shigaki H, Imamura Y, Iwatsuki M, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Transnasal inner drainage: an option for managing anastomotic leakage after esophagectomy. <i>Langenbecks Arch Surg</i> 401(6):903-908, 2016. 査読有
137	※ <u>Harada K</u> , Ida S, <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Kosumi K</u> , Tokunaga R, Izumi D, Ohuchi M, Nakamura K, Kiyozumi Y, Imamura Y, Iwatsuki M, Iwagami S, <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Prognostic and clinical impact of sarcopenia in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Dis Esophagus</i> 29(6):627-33, 2016. 査読有
138	※ <u>Harada K</u> , Mine S, Yamada K, Shigaki H, Oya S, <u>Baba H</u> , Watanabe M: Long-term outcome of esophagectomy for primary malignant melanoma of the esophagus: A single-institute retrospective analysis. <i>Dis Esophagus</i> 29(4):314-9, 2016. 査読有
139	※Okumura H, Mori N, Tanaka T, Morita M, Toh Y, Saeki H, Maehara Y, Nakamura K, Honda H, Yoshida N, <u>Baba H</u> , Natsugoe S: Clinical features and treatment of patients with esophageal cancer and a history of gastrectomy: a multicenter, questionnaire survey in Kyushu, Japan. <i>Dis Esophagus</i> 2016(29):1135-43, 2016. 査読有
140	※Sawayama H, Miyanari N, Morita K, Matsumoto K, Mizumoto T, Kubota T, Haga Y, <u>Baba H</u> : Surgical management of partial dentures in the cervicothoracic esophagus. <i>Esophagus</i> 13(3):270-275, 2016. 査読有
141	※Karashima R, Kimura M, Taura N, Shimokawa Y, Nishimura T, <u>Baba H</u> : Total extraperitoneal approach for incarcerated obturator hernia repair. <i>Hernia</i> 20(3):479-82, 2016. 査読有
142	※ <u>Miyamoto Y</u> , Sakamoto Y, Ohuchi M, Tokunaga R, Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Orbital apex syndrome caused by invasive aspergillosis as an adverse effect of systemic chemotherapy for metastatic colorectal cancer: a Case Report. <i>Anticancer Res</i> 36(2):821-3, 2016. 査読有

143	※Nitta H, <u>Baba H</u> , Sugimori K, Furuse J, Ohkawa S, Yamamoto K, Minami H, Shimokawa M, Wakabayashi GO, Aiba K, CINV Study Group of Japan.: Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting in Patients with Hepatobiliary and Pancreatic Cancer Treated with Chemotherapy: A Prospective Observational Study by the CINV Study Group of Japan. <i>Anticancer Res</i> 36(4):1929-35, 2016. 査読有
144	※Yamashita Y, Wang H, Kurihara T, Tsujita E, Nishie A, Imai K, Hashimoto D, Chikamoto A, Aishima S, <u>Baba H</u> : Clinical significances of preoperative classification of intrahepatic cholangiocarcinoma: different characteristics of perihilar vs. peripheral ICC. <i>Anticancer Res</i> 36(6):6563-70, 2016. 査読有
145	※Okabe H, Hayashi H, <u>Nakagawa S</u> , Imai K, Nitta H, Arima K, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Inducible factors for cancer-associated fibroblasts in liver cancer versus myofibroblasts in inflammatory liver disease. <i>Histol Histopath</i> 31(2):141-8, 2016. 査読有
146	※ <u>Higashi T</u> , Hayashi H, Taki K, Sakamoto K, Kuroki H, Nitta H, Hashimoto D, Chikamoto A, Beppu T, <u>Baba H</u> : Sarcopenia, but not visceral fat amount, is a risk factor of postoperative complications after major hepatectomy. <i>Int J Clin Oncol</i> 21(2):310-19, 2016. 査読有
147	※Masuda T, Kuramoto M, Shimada S, Ikeshima S, Yamamoto K, Nakamura K, Yoshimatsu S, Urata M, <u>Baba H</u> : The effect of extensive intraoperative peritoneal lavage therapy (EIPL) on stage III B + C and cytology-positive gastric cancer patients. <i>Int J Clin Oncol</i> 1(2):289-94, 2016. 査読有
148	※ <u>Miyamoto Y</u> , Tsuji A, Tanioka H, Maekawa S, Kawanaka H, Kitazono M, Oki E, Emi Y, Murakami H, Ogata Y, Saeki H, Shimokawa M, Natsugoe S, Akagi Y, <u>Baba H</u> , Maehara Y: S-1 and irinotecan plus bevacizumab as second-line chemotherapy for patients with oxaliplatin-refractory metastatic colorectal cancer: A multicenter phase II study in Japan (KSCC1102). <i>Int J Clin Oncol</i> 21(4):705-12, 2016. 査読有
149	※Ogata Y, Shimokawa M, Tanaka T, Emi Y, Oki E, Saeki H, Sadanaga N, Kusumoto T, Touyama T, Kimura M, <u>Baba H</u> , Akagi Y, Shirouzu K, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer: A prospective study of XELOX plus bevacizumab as first-line therapy in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (KSCC 0902). <i>Int J Clin Oncol</i> 21(2):335-43, 2016. 査読有
150	※Yoshida N, Tamaoki Y, <u>Baba Y</u> , Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Iwatsuki M, Shono T, Miyamoto H, Imuta M, Kurashige J, Sawayama H, Tokunaga R, Watanabe M, Sasaki Y, Yamashita Y, <u>Baba H</u> : Incidence and risk factors of synchronous colorectal cancer in patients with esophageal cancer: an analysis of 480 consecutive colonoscopies before surgery. <i>Int J Clin Oncol</i> (Doi: 10.1007/s10147-016-1015-8, in press), 2016. 査読有
151	※Shimizu K, Takamori H, <u>Baba H</u> : Usefulness of surgical closure following intraoperative endoscopic additional stenting of duodenal perforation. <i>Int J Surg Case Rep</i> 25(21-23, 2016.
152	※Hashimoto D, Chikamoto A, Harimoto N, Ikegami T, Uchiyama H, Yoshizumi T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: A comparative study on the complications of conventional and end-to-side inserting pancreatojejunostomy after pancreaticoduodenectomy. <i>Surg Today</i> 2017(47):238-44, 2016. 査読有
153	※ <u>Kosumi K</u> , <u>Baba Y</u> , <u>Ishimoto T</u> , <u>Harada K</u> , Nakamura K, Ohuchi M, Kiyozumi Y, Izumi D, Tokunaga R, Taki K, <u>Higashi T</u> , Miyata T, Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwagami S, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Neutrophil/lymphocyte ratio predicts the prognosis in esophageal squamous cell carcinoma patients. <i>Surg Today</i> 46(4):405-13, 2016. 査読有
154	※ <u>Miyamoto Y</u> , Akiyama T, Sakamoto Y, Tokunaga R, Ohuchi M, Shigaki H, Kurashige J, Iwatsuki M, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, <u>Baba H</u> : Omental flap after pelvic exenteration for pelvic cancer. <i>Surg Today</i> 46(12):1471-5, 2016. 査読有
155	※Sakamoto Y, Sakamoto Y, <u>Miyamoto Y</u> , Tokunaga R, Ohuchi M, Kiyozumi Y, Nakamura K, <u>Kosumi K</u> , Izumi D, <u>Harada K</u> , Kurashige J, Hiyoshi Y, Iwagami S, <u>Baba Y</u> , Yoshida N, Watanabe M, <u>Baba H</u> : Cryptogenic repetitive severe colitis after ileostomy closure. <i>Int Canc Conf J</i> 5(2):104-6, 2016. 査読有
156	※ <u>Higashi T</u> , Hayashi H, Takeyama H, Arima K, Taki K, Takamori H, <u>Baba H</u> : Evaluation of patients with hepatic portal venous gas who can be treated with conservative therapy. <i>Acute Medicine & Surgery</i> 3(1):16-20, 2016. 査読有
157	※Hirose K, Okabe H, Yoshizumi T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Kimura K, <u>Baba H</u> , Maehara Y: A case report of bacteremia manifesting as an overwhelming postsplenectomy infection due to Streptococcus pneumoniae post vaccination. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):48, 2016. 査読有
158	※Kuroda D, Hayashi H, Nitta H, Imai K, Abe S, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, <u>Baba H</u> : Successful treatment for sorafenib-induced liver dysfunction: a report of case with liver biopsy. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):4, 2016. 査読有
159	※Okabe H, Chikamoto A, Maruno M, Hashimoto D, Imai K, Taki K, Arima K, Ishiko T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Yoshizumi T, Beppu T, <u>Baba H</u> , Maehara Y: A long survivor with local relapse of hilar cholangiocarcinoma after R1 surgery treated with chemoradiotherapy: a case report and literature review. <i>Surg Case Rep</i> 2(1):69, 2016. 査読有
160	※Yamashita Y, Ikegami T, Uchiyama H, Tsujita E, Itoh S, Harimoto N, Soejima Y, Taketomi A, <u>Baba H</u> , Maehara Y: Inquiries about biomarkers of acute liver failure in patients who underwent living donor liver transplantation using a protein chip array. <i>Fukuoka Igaku Zasshi</i> 107(131-5, 2016. 査読有

②学会等における発表

発表題名 等	
<p>(発表題名、発表者名、発表した学会等の名称、開催場所、口頭発表・ポスター発表の別、審査の有無、発表年月(西暦)について記入してください。)(以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。)</p> <p>・発表者名は参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること。共同発表者がいる場合は、全ての発表者名を記載し、責任発表者名は「※」印を付して下さい。発表者名について主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者については<u>下線</u>、若手研究者については<u>波線</u>を付して下さい。</p> <p>・口頭・ポスターの別、発表者決定のための審査の有無を区分して記載して下さい。</p> <p>・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。</p> <p>・海外の連携機関の研究者との国際共同発表には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共同発表については番号の前に○印を付して下さい。また、主要連携研究者については<u>斜体・太下線</u>、連携研究者については<u>斜体・破線</u>としてください。</p>	
◎1	<p>第116回日本外科学会定期学術集会 2016年4月14日 リーガロイヤルホテル大阪 「網羅的ゲノム解析に基づいた胃癌 Cancer Associated Fibroblasts (CAFs) の特性解明」口頭発表 審査有</p> <p>※<u>石本崇胤</u>、<u>三宅慧輔</u>、<u>八代正和</u>、<u>泉大輔</u>、<u>志垣博信</u>、<u>藏重淳二</u>、<u>岩槻政晃</u>、<u>馬場祥史</u>、<u>坂本快郎</u>、<u>宮本裕士</u>、<u>吉田直矢</u>、<u>平川弘聖</u>、<u>Tan Patrick</u>、<u>馬場秀夫</u></p>
2	<p>第116回日本外科学会定期学術集会 2016年4月16日 リーガロイヤルホテル大阪 「食道胃接合部癌腺癌において pN2/3 および Siewert type1 は予後不良因子である」口頭発表(ワークショップ) 審査有</p> <p>※<u>今村裕</u>、<u>中村健一</u>、<u>徳永竜馬</u>、<u>黒河内喬範</u>、<u>岡村明彦</u>、<u>江藤弘二郎</u>、<u>日吉幸晴</u>、<u>井田 智</u>、<u>西田康二郎</u>、<u>沖 栄次</u>、<u>吉田直矢</u>、<u>峯真司</u>、<u>佐野武</u>、<u>前原喜彦</u>、<u>馬場秀夫</u>、<u>渡辺雅之</u></p>
○3	<p>第116回日本外科学会定期学術集会 2016年4月16日 大阪国際会議場 「両葉多発大腸癌肝転移に対する ALPPS 手術 vs Two-stage hepatectomy : Early report of oncological outcomes」口頭発表 審査有</p> <p>※<u>Imai K</u>, <u>Carlos Castro Benitez</u>, <u>Marc-Antoine Allard</u>, <u>Eric Vibert</u>, <u>Antonio Sa Cunha</u>, <u>Daniel Cherqui</u>, <u>Denis Castaing</u>, <u>Bappu T</u>, <u>Baba H</u>, <u>Rene Adam</u></p>
○4	<p>第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2016年6月2日 大阪国際会議場 「切除不能大腸癌肝転移に対する conversion chemotherapy と肝切除後の予後予測ノモグラム」ポスター 審査有</p> <p>※<u>Imai K</u>, <u>Allard Marc-Antoine</u>, <u>Castro Benitez Carlos</u>, <u>Vibert Eric</u>, <u>Sa Cunha Antonio</u>, <u>Cherqui Daniel</u>, <u>Castaing Denis</u>, <u>Bismuth Henri</u>, <u>Ymashita Y</u>, <u>Bappu T</u>, <u>Baba H</u>, <u>Adam</u></p>
◎5	<p>ASCO 2016 2016年6月6日 McCormich Place 「A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic dexamethasone (dex) therapy for fatigue and malaise due to regorafenib in patient (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC): (KSCC1402/HGCSG1402)」ポスター 審査有</p> <p>※<u>Miyamoto Y</u>, <u>Stintzing S</u>, <u>Loupakis F</u>, <u>Wu Z</u>, <u>Shu C</u>, <u>Yan N</u>, <u>Okazaki S</u>, <u>Martin D. B</u>, <u>Suenaga M</u>, <u>Schirripa M</u>, <u>Matsusaka S</u>, <u>Dongyun Y</u>, <u>Jordan DW</u>, <u>Roel G</u>, <u>Diana L. H</u>, <u>Afsaneh B</u>, <u>Baba H</u>, <u>Volker H</u>, <u>Heinz-Josef Lenz</u></p>
○6	<p>ASCO 2016 2016年6月3~7日 紙面発表 「Colorectal liver metastases with concomitant extrahepatic disease: Is there a hope of cure?」 審査有</p> <p>※<u>Imai K</u>, <u>Carlos Castro Benitez</u>, <u>Marc Antoine Allard</u>, <u>Eric Vibert</u>, <u>Antonio Sa Cunha</u>, <u>Daniel Cherqui</u>, <u>Denis Castaing</u>, <u>Henri Bismuth</u>, <u>Hideo Baba</u>, <u>Rene Adam</u></p>
○7	<p>EAES 2016 2016年6月18日 RAI Amsterdam 「LAPAROSCOPIC VERSUS OPEN LIVER RESECTION FOR HEPATOCELLULAR CARCINOMA WITH PROPENSITY-SCORE MATCHING ANALYSIS: A MULTI-INSTITUTIONAL JAPANESE STUDY」口頭発表 審査有</p> <p>※<u>Imai K</u>, <u>Beppu T</u>, <u>Takahara T</u>, <u>Wakabayashi G</u>, <u>Aihara A</u>, <u>Hasegawa K</u>, <u>Gotohda N</u>, <u>Hatano E</u>, <u>Tanahashi Y</u>, <u>Mizuguchi T</u>, <u>Kamiyama T</u>, <u>Ikeda T</u>, <u>Tanaka S</u>, <u>Taniai N</u>, <u>Baba H</u>, <u>Tanabe M</u>, <u>Kokudo N</u>, <u>Konishi M</u>, <u>Uemoto S</u>, <u>Sugioka A</u>, <u>Hirata K</u>, <u>Taketomi A</u>, <u>Maehara Y</u>, <u>Kubo S</u>, <u>Uchida E</u>, <u>Miyata H</u>, <u>Nakamura M</u>, <u>Kaneko H</u>, <u>Yanaue H</u>, <u>Miyazaki M</u>, <u>Takada</u></p>

8	第 70 回日本食道学会学術集会 2016 年 7 月 5 日 ザ・プリンスパークタワー東京 「Siewert type I - II 食道胃接合部腺癌における郭清効果 index の検討」口頭発表 (ワークショップ) 審査有 ※今村 裕、峯真司、沖英次、山本学、比企直樹、森田勝、佐野武、前原喜彦、 <u>馬場秀夫</u> 、渡邊雅之
9	第 71 回日本消化器外科学会総会 2016 年 7 月 14 日 アスティとくしま 「食道胃接合部腺癌の臨床病理学的特徴と治療成績の検討」ポスター 審査有 ※今村 裕、峯 真司、沖 英次、山本 学、比企直樹、森田勝、佐野武、前原喜彦、 <u>馬場秀夫</u> 、渡邊雅之
◎10	第 71 回日本消化器外科学会総会 2016 年 7 月 14 日 アスティとくしま 「Cancer Associated Fibroblasts ゲノム解析に基づいた diffuse type 胃癌浸潤を制御する新規遺伝子の同定」ポスター 審査有 ※石本崇胤、三宅慧輔、八代正和、泉大輔、有馬浩太、 <u>馬場祥史</u> 、渡邊雅之、平川弘聖、 <u>Tan Patrick</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
○11	第 71 回日本消化器外科学会総会 2016 年 7 月 15 日 アスティとくしま 「両葉多発の高度進行大腸癌肝転移に対する Two-stage hepatectomy と ALPPS 手術」口頭発表 (パネルディスカッション) 審査有 ※今井克憲、Carlos Castro Benitez、Marc-antoine Allard、Cuhna Antonio Sa、Daniel Cherqui、Denis Castaing、山下洋市、別府 透、 <u>馬場秀夫</u> 、Rene Adam
12	IASGO 2016 Sendai 2016 年 8 月 3 日 Seiryō Auditorium 「Safety and morbidity of pancreaticoduodenectomy for elder patients.」口頭発表 審査有 ※ <u>Nakagawa S</u> 、Hashimoto D, Umezaki N, Yamao T, Yamamura K, Arima K, Kaida T, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, <u>Baba H</u>
13	IASGO 2016 2016 年 9 月 8 日 Sheraton Grande Walkerhill (韓国) 「Clinical and prognostic significance of esophageal cancer patients with second primary cancers.」ポスター 審査有 ※ <u>Baba Y</u> 、Yoshida N, Yagi T, Nakamura K, Kinoshita K, <u>Mima K</u> , Sawayama H, Iwatsuki M, Sakamoto Y, <u>Baba H</u>
○14	IASGO 2016 2016 年 9 月 9 日 Sheraton Grande Walkerhill(韓国) 「Colorectal Liver Metastases with Concomitant Extrahepatic Disease: Is There a Hope of Cure?」口頭発表 審査有 ※Imai K, Benitez C, Marc A, Eric V, Antonio C, Daniel C, Denis C, Henri H, Yamashita Y, <u>Baba H</u> , Rene A
15	IASGO 2016 2016 年 9 月 9 日 Sheraton Grande Walkerhill (韓国) 「Preoperative serum hyaluronic acid level as a prognostic factor in patients undergoing hepatic resection for hepatocellular carcinoma.」口頭発表 審査有 ※ <u>Mima K</u> 、Yamashita Y, Imai K, Kaida T, Yamao T, Kitano Y, Miyata T, <u>Nakagawa S</u> , Chikamoto A, Ishiko T, <u>Baba H</u>
16	IASGO 2016 2016 年 9 月 10 日 Sheraton Grande Walkerhill (韓国) 「Safety and morbidity of pancreaticoduodenectomy for elder patients.」口頭発表 審査有 ※ <u>Nakagawa S</u> 、Hashimoto D, Umezaki N, Yamao T, Yamamura K, Arima K, Kaida T, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, <u>Baba H</u>
17	第 27 回日本消化器癌発生学会総会 2016 年 9 月 15 日 城山観光ホテル(鹿児島県) 「食道胃接合部腺癌におけるマイクロサテライト不安定性の検討」口演発表 審査有 ※今村 裕、峯 真司、黒河内喬範、山下公太郎、岡村明彦、沖 英次、比企直樹、前原喜彦、 <u>馬場秀夫</u> 、佐野武、渡邊雅之
○18	第 35 回 Microwave Surgery 研究会 2016 年 9 月 16 日 メルパルク熊本 「大腸癌多発肝転移に対する肝切除+ラジオ波凝固療法: 肝切除単独との比較」口頭発表 審査有 ※今井克憲、Allard M arc-Antoine、Castro Benitez Carlos Castro Benitez、Vibert Eric、Castaing Denis、Adam R ené、山下洋市、 <u>馬場秀夫</u>

◎19	第 75 回日本癌学会学術総会 2016 年 10 月 7 日 パシフィコ横浜 (神奈川県) 「Cancer Associated Fibroblasts (CAFs)ゲノム解析に基づいた胃癌浸潤を制御する新規遺伝子の同定」口頭発表 審査有 ※石本崇胤、三宅慧輔、八代正和、有馬浩太、泉大輔、澤山浩、岩槻政晃、馬場祥史、坂本快郎、吉田直矢、平川弘聖、馬場秀夫、 <u>Tan Patrick</u>
20	第 54 回日本癌治療学会学術集会 2016 年 10 月 20 日 パシフィコ横浜 (神奈川県) 「Recent advances in treatment for colorectal cancer in Japan」口頭発表 (International Session) 審査無 ※ <u>Baba H</u>
21	40th World Congress Secretariat 2016 年 10 月 25 日 Kyoto International Conference Center 「Tumor LINE-1 methylation level and colorectal cancer location in relation to patient survival」口頭発表 審査無 ※ <u>Mima K</u>
○22	JDDW2016 2016 年 11 月 10 日 神戸コンベンションセンター 「大腸癌肝転移に対する肝切除術後再発：早期再発の定義および予測因子」ポスター 審査有 ※今井克憲、M.-A. Allard、C. B. Castro、E. Vibert、A. S. Cunha、D. Cherqui、D. Castaing、H. Bismuth、馬場秀夫、R. Adam
○23	第 78 回日本臨床外科学会総会 2016 年 11 月 24 日 グランドプリンスホテル新高輪 (東京都) 「大腸癌両葉多発肝転移に対する Two-stage hepatectomy : 治療成績と予後規定因子」口頭発表 (パネルディスカッション) 審査有 ※今井克憲、Castro Benitez Carlos、Allard Marc-Antoine、Vibert Eric、Sa Cunha Antonio、Cherqui Daniel、Castaing Denis、Bismuth Henri、山下洋市、馬場秀夫、Adam Rene
24	ESMO-ASIA 2016 2016 年 12 月 17 日 Suntec Singapore Convention Exhibition Centre (シンガポール) 「Prognostic characteristics of esophageal cancer patients with multiple primary cancers: a retrospective single institution study」ポスター 審査有 ※ <u>Baba Y</u> 、 <u>Ishimoto T</u> 、Kinoshita K、Sawayama H、Iwatsuki M、Sakamoto Y、Yoshida N、Watanabe M、 <u>Baba H</u>
◎25	ESMO-ASIA 2016 2016 年 12 月 17 日 Suntec Singapore Convention Exhibition Centre (シンガポール) 「Identification of the novel molecules mediating gastric cancer invasion based on genomic analysis of cancer-associated fibroblasts」ポスター 審査有 ※ <u>Ishimoto T</u> 、Miyake K、Nandi T、Yashiro M、Huang K、Arima K、Izumi D、 <u>Baba Y</u> 、 <u>Baba H</u> 、 <u>Tan P</u>
◎26	ESMO-ASIA 2016 2016 年 12 月 17 日 Suntec Singapore Convention Exhibition Centre (シンガポール) 「MicroRNA MIR21, T cells, and PTGS2 expression in Colorectal Cancer」ポスターディスカッション 審査有 ※ <u>Mima K</u> 、Nishihara R、Qian Z、 <u>Baba H</u> 、 <u>Ogino S</u>
27	第 13 回日本消化管学会総会学術集会 2017 年 2 月 18 日 名古屋国際会議場 (愛知県) 「消化器癌における LINE-1 メチル化レベルの予後予測および効果予測バイオマーカーとしての意義」口頭発表 (ワークショップ) 審査有 ※馬場祥史、美馬浩介、澤山浩、木下浩一、岩槻政晃、坂本快郎、吉田直矢、馬場
28	第 89 回日本胃癌学会総会 2017 年 3 月 8 日 広島国際会議場 (広島県) 「新ガイドラインにおける外科治療」口頭発表 (プレナリーセッション) 審査無 ※馬場秀夫、岩槻政晃
◎29	第 89 回日本胃癌学会総会 2017 年 3 月 9 日 広島国際会議場 (広島県) 「腫瘍間質ゲノム解析に基づいた胃癌浸潤を制御する新規分子機構の解明」口頭発表 審査有 ※石本崇胤、三宅慧輔、八代正和、江藤二男、有馬浩太、泉大輔、岩槻政晃、馬場祥史、渡邊雅之、平川弘聖、 <u>Tan Patrick</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
30	第 89 回日本胃癌学会総会 2017 年 3 月 9 日 広島国際会議場 (広島県) 「食道胃接合部癌におけるマイクロサテライト不安定性の検討」口頭発表 審査有 ※今村 裕、比企直樹、沖 英次、森田 勝、馬場秀夫、佐野 武、渡邊雅之

31	第 89 回日本胃癌学会総会 2017 年 3 月 10 日 広島国際会議場 (広島県) 「胃癌における LINE-1 メチル化 ～PROGNOSTIC MARKER と FIELD CANCERIZATION～」口頭発表 (ワークショップ) 審査有 ※ <u>馬場祥史</u> 、 <u>岩槻政晃</u> 、 <u>石本崇胤</u> 、 <u>坂本快郎</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>馬場秀夫</u>
◎32	第 50 回制癌剤適応研究会 2017 年 3 月 17 日 ホテルクレメント徳島(徳島県) 「腫瘍間質に依存する diffuse type 胃癌浸潤の新しい分子機構の解明」口頭発表 (シンポジウム) 審査有 ※ <u>石本崇胤</u> 、 <u>三宅慧輔</u> 、 <u>八代正和</u> 、 <u>江藤二男</u> 、 <u>有馬浩太</u> 、 <u>泉大輔</u> 、 <u>岩槻政晃</u> 、 <u>馬場祥史</u> 、 <u>吉田直矢</u> 、 <u>渡邊雅之</u> 、 <u>Patrick Tan</u> 、 <u>馬場秀夫</u>

5. 若手研究者の派遣実績 (計画)

【海外派遣実績 (計画)】

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
派遣人数	2 人	6 人 (2 人)	5 人 (4 人)	7 人

※当該年度は実績、次年度以降は計画している人数を記載

【本年度の海外派遣実績】

派遣者②の氏名・職名：石本 崇胤・研究員

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

Duke-NUS Medical School Singapore において胃癌間質細胞を用いた網羅的ゲノム解析をおこない、得られたデータを基盤として胃癌進展のバイオマーカー検索および浸潤・転移に関わる候補遺伝子の機能解析をおこなった。

(具体的な成果)

RNA シークエンシングの結果、diffuse-type 胃癌由来の CAFs では TGF- β 下流遺伝子群が NFs に比べて著明に亢進し癌細胞の浸潤をサポートしていることを明らかにした。間質における TGF- β signaling を制御する遺伝子を同定し、この遺伝子の発現が特定の炎症性サイトカインによって引き起こされる事を見出した。更に 7 つの独立したコホート研究から計 546 症例を用いた予後解析により、これらの炎症性サイトカインの高発現が予後不良に繋がること分かった。この結果から炎症は発癌過程だけでなく腫瘍間質内シグナルの活性化を介して癌進展を引き起こすことが明らかになった (Ishimoto T et al. Gastroenterology, in press)。今後、これらの知見に基づいて腫瘍間質が胃癌細胞自体の特性、とくに癌幹細胞性に与える影響について検討を行なっていく予定である。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
シンガポール、Duke-NUS Graduate Medical School Singapore、Patrick Tan	173 日	363 日	153 日	691 日

派遣者③の氏名・職名：原田 和人・非常勤診療医師

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

食道癌、胃癌臨床検体を用いて、癌代謝、抗癌剤感受性に強く関与する遺伝子の発現解析、mutation 解析、液体クロマトグラフィー質量分析法を用いた解析を行う。特に胃癌研究においては予後不良である腹膜播種の転移メカニズムおよび治療ターゲットの解明を目的とする。食道癌研究においては術前放射線化学療法への感受性に関連するMolecular ターゲットを解明することを目的とする。臨床検体を用いた網羅的解析、橋渡し研究により、個別化治療の標的遺伝子の同定し食道癌、胃癌の新たなバイオマーカー、新規治療法の開発を目指す。

(具体的な成果)

- 1 腹水を伴う胃癌患者より、腹水を採取し腹水細胞を分離した。分離した細胞より、DNA、RNA、タンパクを採取し、それぞれを Exon Sequence, RNA Sequence, 液体クロマトグラフィー質量分析法による網羅的解析を行った。腹水細胞をマウスに移植することで PDX モデルを作製することにも成功した。液体クロマトグラフィー質量分析の結果によると、代謝酵素の一つでがん幹細胞との関係が報告されている ALDH1 が腹水細胞に増加していることを明らかにされた。また、ゲノムの特徴により腹水癌細胞がいくつかのサブタイプに分類される可能性が示唆された。現在、ゲノムデータおよびタンパク質発現の詳細な解析を行っている段階である。
- 2 食道腺癌に対しては、術前放射線療法が行われるが、その感受性は癌により様々である。癌診断のツールの一つで癌糖代謝の指標となる PET-CT による SUV 値は放射線化学療法に対する感受性と強く相関することを明らかにした。術前治療開始前に内視鏡で採取された食道腺癌の組織サンプルから DNA, RNA を抽出し、抗癌剤奏功症例と非奏功症例、PET-SUV 高集積症例(糖代謝亢進)と低集積症例の遺伝子発現の比較を行っている。
- 3 DNA のメチル化の指標となる LINE-1 メチル化レベルは様々な腫瘍の病理学的因子と関係がある。食道腺癌の前癌病変であるバレット食道では正常細胞と比較して、LINE-1 のメチル化レベルが低下していることを明らかにした。LINE-1 のメチル化レベルは癌代謝を含め、様々な癌の分子生物学的因子に影響していることが予想される。現在、300 例を越える臨床検体より DNA, RNA を抽出中である。多数例の臨床データと LINE-1 メチル化レベルの関係を明らかにする予定である。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米国、MD Anderson cancer center、 Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology、Jaffer A. Ajani	0 日	131 日	365 日	496 日

派遣者⑤の氏名・職名： 宮本 裕士・助教

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

大腸癌におけるゲノム薬理学 (pharmacogenomics) の技術を応用し、がん代謝に関わる遺伝子多型などの解析を行うことにより、がん代謝を標的とした創薬またはそのバイオマーカーの開発を目指す。

Bevacizumab は VEGF を標的とするモノクローナル抗体で、血管新生阻害薬として切除不能大腸癌において標準治療として用いられている。これまで、バイオマーカー同定のための様々な試みがなされているが、臨床応用されるほどの結果は未だ得られていない。肥満は欧米諸国共通の問題であり、様々な疾患を引き起こし、肥満による癌死亡リスク上昇も報告されている。肥満が癌に与える影響は、脂肪組織により産生されるアディポカインレベルに左右される。今回、USC Norris Comprehensive Cancer Center において、切除不能大腸癌に対する bevacizumab 併用化学療法の治療効果予測因子として、アディポカイン関連遺伝子についての機能性 SNP 解析を行った。第 III 相臨床試験である FIRE-3 試験の Bevacizumab+FOLFIRI 群 (n=301) を Discovery コホート、同じく第 III 相臨床試験である TRIBE 試験の Bevacizumab+FOLFIRI 群 (n=230) を validation コホート、FIRE-3 試験の Cetuximab+FOLFIRI 群 (n=264) を Control コホートとして解析を行った。7つのアディポカイン関連遺伝子 (LEP, LEPR, ADIPOQ, ADIPOR1, RETN, TNFa and NAMPT) の 11つの機能性 SNP を選択した。SNP それぞれについて PCR を施行し、ダイレクトシーケンシング法を用いて解析した。さらに、肥満による影響を考慮するために、サブグループ解析として High BMI 群 (25kg/m² 以上) と Low BMI (25kg/m² 未満) の群別に同様の比較を行った。

(具体的な成果)

FIRE-3 discovery コホートにおいて、LEPR rs1137100 と NAMPT rs61330082 は PFS と有意な関連があることが明らかになった。LEPR rs1137100 G/G アレル (n=24) は A/-アレルと比較して、有意に PFS が短かった。この結果は多変量解析でも同様であった。NAMPT rs6133008 T/T アレル (n=24) は C/-アレルと比較して、PFS が短かく、多変量解析において有意さを認めた。また、RETN rs1862513 は OS と有意な関連を持つことが明らかになった。RETN rs1862513 C/C アレル (n=23) は G/-アレル (n=246) と比較して、有意に OS が短かった。

サブグループ解析では high BMI 群において、LEPR rs1137100 と RETN rs1862513 は予後とのより強い関連が認められた。Low BMI 群においてはいずれの SNP においても予後との関連は認めなかった。Bevacizumab を使用していない FIRE-3 control コホートにおいてはいずれの SNP も予後との関連を認めなかった。また、validation コホートとしての TRIBE 試験においては、FIRE-3 で認められた同様な結果は認められなかった。

今回の結果では、ドイツ人を対象とした FIRE-3 試験において、アディポカインシグナルが Bmab+FOLFIRI 治療の 1 次治療を受けた切除不能大腸癌の予後と関連することが示された。また、これらの結果は BMI 高値の症例でより顕著であった。しかし、イタリア人を対象とした TRIBE 試験で validation を得ることはできなかった。これらの結果より、アディポカインシグナルは有用なバイオマーカーになりうる可能性はあるものの、人種や BMI 値の影響を受けることが示唆された。これらの研究に関する総説を報告した (Miyamoto Y et al. Clin Cancer Res 2016)

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	

米国、University of Southern California、Norris Comprehensive Cancer Center、Heinz-Josef Lenz	0 日	283 日	350 日	633 日
--	-----	-------	-------	-------

派遣者⑦の氏名・職名： 小澄 敬祐・研究員

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

世界有数の癌研究拠点施設と共同で、消化器癌におけるがん代謝制御に関わるジェネティック・エピジェネティック変化を網羅的に探索し、がん代謝を基盤とした新たな診断・治療法の開発に繋げていくことが目的である。

(具体的な成果)

がん代謝異常は腸内細菌および宿主の腫瘍免疫と複雑な相互作用を有し、更に大腸癌の発癌や進展に重要な役割を果たしている。特に腸内細菌とがん代謝の関係は近年の癌研究のトピックであり、がん代謝を解明するうえで非常に重要となる。マイクロバイオーーム研究が進む中、大腸癌において特に注目すべき微生物が、*Fusobacterium nucleatum*、*Bifidobacterium* genus、*Bacteroides fragilis*、*Escherichia coli* である。我々は、過去に *Fusobacterium nucleatum* が大腸癌の予後不良と強く関連することを報告した。*Fusobacterium nucleatum* と大腸癌の関連解析をさらに進め、*Fusobacterium nucleatum* の局在に特徴がある事を明らかにした。つまり、*Fusobacterium nucleatum* 高発現の大腸癌が直腸から盲腸にかけて増加する事を報告した (Mima K. Clin Transl Gastroenterol 2016)。また、発癌前のライフスタイルとの関連解析を行い、穀物類・食物繊維の多い食事が *Fusobacterium nucleatum* 陽性大腸癌の発癌を予防する可能性を報告した (Mehta RS. JAMA Oncol 2017)。*Bifidobacterium* はヨーグルトなどの食品に含まれる微生物で、Melanoma において抗 CD274 (PD-L1) 抗体による抗腫瘍効果を増強させることが in Vivo で示された (Sivan A. Science 2015)。我々はまず大腸癌約 100 例の癌部より DNA を抽出し、DNA に含まれる *Bifidobacterium* genus および 16s の発現量を qPCR にて測定し、*Bifidobacterium* genus の Relative rate を算出した。その結果、*Bifidobacterium* genus 高検出群は KRAS 変異陽性および BRAF 変異陰性と相関する傾向を認めた。我々は更なる解析のために、大腸癌 1200 例を追加抽出し、*Bifidobacterium* genus を測定した (検出率：約 30%)。*Bacteroides fragilis* に関しては、特に Enterotoxigenic *Bacteroides fragilis* (ETBF) が重要で、ETBF に対する Th17 細胞の反応が発癌に繋がる可能性がある。また、*Escherichia coli* の産生する Colibactin (pks gene) は c-Myc を亢進することで、大腸癌進展に寄与する可能性がある。我々は、ETBF、Non-toxic *Bacteroides fragilis*、*Escherichia coli* with pks、*Escherichia coli* without pks の細菌 DNA を入手、positive control とし、qPCR による ETBF、*Escherichia coli* with pks 解析方法を確立した。しかし、パラフィン包埋ブロックより抽出した大腸癌癌部 DNA を用いた場合、検出率が大きく低下する事が明らかになった (ETBF 検出率 10%未満、*Escherichia coli* with pks 検出率 0%)。現在、検出率改善を目指した実験系の再設計を行っている。

オートファジーは自食作用とも言われ、がん代謝を制御している。なかでも SQSTM1 (p62) は近年のオートファジー研究の中で注目を集めるオートファジーマーカーの一つであり、SQSTM1 は発癌およびがん代謝との関連が強く示唆される。我々は、大腸癌約 600 例を対象に、癌部における SQSTM1 の発現レベルを免疫染色によって評価し、様々なリンパ

球マーカー（CD3、CD8、CD45RO、FOXP3）との関連解析を行った。そして、SQSTM1 高発現が FOXP3 低下と有意に相関することを報告した（Kosumi K. OncoImmunology 2017）。				
派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
米国、Dana-Farber Cancer Institute Dept. of Medical Oncology, Shuji Ogino	0 日	83 日	365 日	448 日

派遣者⑧の氏名・職名： 東 孝暁・研究員

<p>(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)</p> <p>Mount Sinai 医科大学の星田研究室では肝細胞癌の発癌リスク因子の同定、および肝細胞癌の抗がん剤感受性に関して様々な研究を行っている。肝細胞癌は C 型肝炎、B 型肝炎、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) などによる線維化を伴う背景肝より発症する疾患であるが、その発癌・進展に関わるメカニズムは不明な点が多い。臨床検体を用いた DNA マイクロアレイによる遺伝子解析を行い、発癌リスクや予後不良に関わるバイオマーカーを同定することで、これを用いた肝細胞癌の発癌・予後・治療効果の予測を行い、臨床応用することを目標としている。</p> <p>(具体的な成果)</p> <p>Diethylnitrosamine (DEN) 肝発癌モデルにおいて、非癌部で EGFR が過剰発現していること、EGFR inhibitor である Erlotinib を投与することで肝細胞癌の発癌抑制効果を示すことを報告してきた (Fuchs BC, Hoshida et al. Hepatology. 2014)。発癌抑制を目指して Erlotinib を臨床応用するにあたっては、予防投与による有害事象の出現をいかに防ぐことができるかが大きな問題になってくる。そこで、肝細胞癌の発癌に深く関与しているといわれている肝星細胞をターゲットとした Drug delivery system により、Erlotinib をより選択的に作用させるシステムを構築した。その後に Erlotinib による肝細胞癌の発癌抑制効果を調べ、臨床に繋がる発癌抑制薬剤の探索を行った。正常肝には作用させず、線維化の進行した肝組織 (肝星細胞) にのみ薬剤を Delivery するため、肝の線維化の指標である肝星細胞に特異的に発現している Platelet-Derived Growth Factor Receptor (PDGFR) をターゲットとした Drug delivery system を構築することを目標とした。活性化した肝星細胞には PDGFR が特異的に発現していることが分かっているため、PDGFR に特異的に結合する蛋白を膜表面に発現させ、Erlotinib を内部に含有させた Nanoparticle を作成した。In vitro では、PDGFR 陽性である LX2, TWNT4 細胞株と陰性である HepG2 細胞株を使用し、Nanoparticle の肝星細胞への特異的な集積を確認した。In vivo では、Nanoparticle 投与による臓器集積性を確認し、肝臓特異的に作用するシステムの構築を行うとともに、Erlotinib による肝線維化の抑制効果や肝細胞癌発癌抑制効果の確認を行った。DEN 肝発癌モデルでは、前癌病変の指標である GSTP1 陽性細胞が高度に出現し、肝細胞癌の指標である GPC3 陽性も散見されていたのに対し、Erlotinib を内部に含有させた Nanoparticle を投与したところその発現はほとんど確認できなかった。</p>				
派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	

米国、Icahn School of Medicine at Mount Sinai, Yujin Hoshida	0日	0日	325日	336日
---	----	----	------	------

※本年度の派遣者毎に作成すること。

6. 研究者の招へい実績（計画）

【招へい実績（計画）】

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
招へい人数	1 人	2 人 (0 人)	3 人 (0 人)	6 人

※当該年度は実績、次年度以降は計画している人数を記載

【本年度の招へい実績】

招へい者⑤の氏名・職名： Gao Feng・講師

<p>（当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動）</p> <p>平成 28 年 9 月から約 6 ヶ月間、Dr. Zhou に引継ぎ、当科保有の膵癌データベースより抽出されたがん代謝関連バイオマーカーの機能解析を担当する。また、膵癌細胞株を用いて、癌代謝関連分子の機能解析を行う。</p> <p>（具体的な成果）</p> <p>膵癌症例のホルマリン固定パラフィン包埋組織より DNA を抽出し、バイサルファイト、LINE-1 増幅、パイロシーケンスによるメチル化レベルの測定を行った。その結果について、癌部と非癌部の LINE-1 メチル化レベルの比較、および LINE-1 メチル化レベルと臨床病理学的因子との関係、予後との関係を検討した。その成果は、現在 腫瘍学のトップジャーナルに投稿中である。また、がん代謝に関連する分子として LOX に注目し、膵癌細胞株を用いて機能解析を行っている。</p>				
招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery, China、馬場秀夫（熊本大学）	0日	0日	157日	157日

招へい者⑥の氏名・職名：Jaffer A. Ajani ・ 教授

<p>（当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動）</p> <p>連携研究者である MD Anderson cancer center、Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology の Professor Jaffer A. Ajani を招聘し、MD Anderson cancer center、熊本大学における研究進捗状況の確認、本プログラム終了後の研究実施についての打ち合わせを行う。また、派遣者の受入環境や、事務手続きに係る状況等について不都合な点等なかったかの確認を行う。</p>
--

<p>(具体的な成果)</p> <p>平成 29 年 2 月 8 日から 2 月 12 日に熊本大学へ招へいし、研究の進捗状況、今後の方針などについての discussion を行った。また、2 月 11 日に拠点形成研究 A と共催の国際シンポジウムへ参加し、熊本大学教職員や研究者を対象として「胃癌におけるがん代謝の特徴」についてのレクチャーを行った。</p>				
招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
MD Anderson cancer center、Department of Gastrointestinal (GI) Medical Oncology、米国、馬場秀夫（熊本大学）	0 日	0 日	5 日	5 日

招へい者⑤の氏名・職名：Tan Xiaodon ・ 教授 _____

<p>(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)</p> <p>連携研究者である Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery の Professor Tan Xiaodon を招聘し、Shengjing Hospital of China Medical University、熊本大学における研究進捗状況の確認、本プログラム終了後の研究実施についての打ち合わせを行う。また、招へい研究者の受入に関する事務手続きに係る状況等について不都合な点等なかったかの確認を行い、招へい研究者である Gao Feng 医師とも面談、研究活動及び日常生活についての確認をしてもらう。</p>				
<p>(具体的な成果)</p> <p>平成 29 年 2 月 10 日から 2 月 12 日まで熊本大学消化器外科学を訪問し、Gao Feng 医師の生活状況、研究の進捗状況について確認、今後の研究推進に関する打ち合わせを行った。また、2 月 11 日には拠点形成研究 A と共催の国際シンポジウムへ参加し、熊本大学教職員や研究者を対象として「膵癌における浸潤・転移機構の解析」についてのレクチャーを行った。</p>				
招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
Shengjing Hospital of China Medical University, Department of Pancreatic and Thyroidal Surgery, China、馬場秀夫（熊本大学）	0 日	0 日	3 日	3 日

※本年度の招へい者毎に作成すること。

7. 翌年度の補助事業の遂行に関する計画

Blank area for reporting or notes.

※ 補助事業が完了せずに国の会計年度が終了した場合における実績報告書には、翌年度の補助事業の遂行に関する計画を附記すること。